

帝國憲法義解

完

附○議院法○衆議院議員選舉法○全附錄○會計法○貴族院令

明治法律學校講師

佛國大學法律學士

宮城浩藏先生校閱

明治法律學校之友

佐藤治三郎

松井誠造

著

東京

同盟書房發行

特16
25

帝國憲法義解 完

明治法律學校講師
佛國大學法律學士

宮城浩藏先生校閱

明治法律
學校之友
同

佐藤治三郎

松井誠造

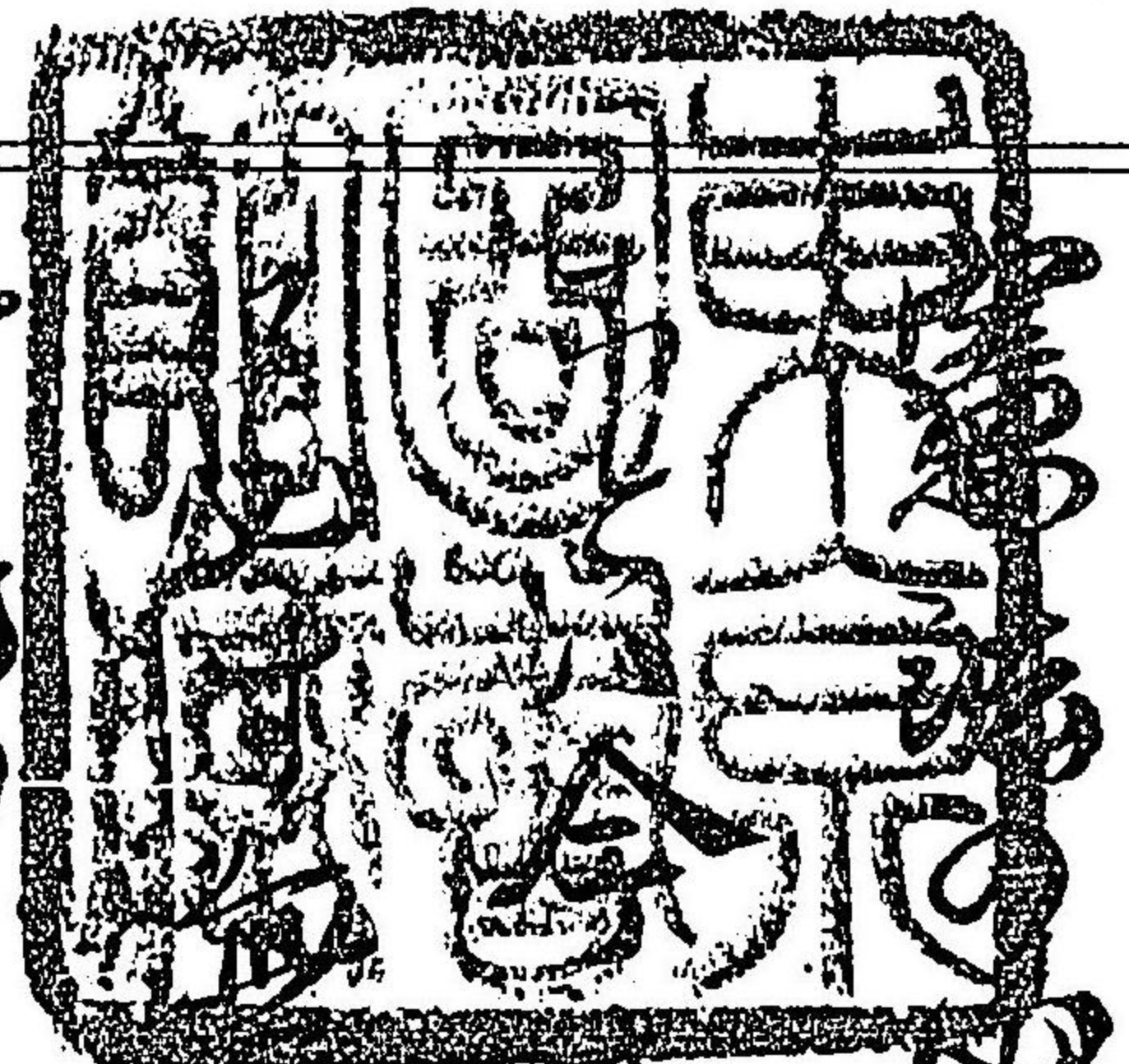
著

東京

同盟書房發行

№15745

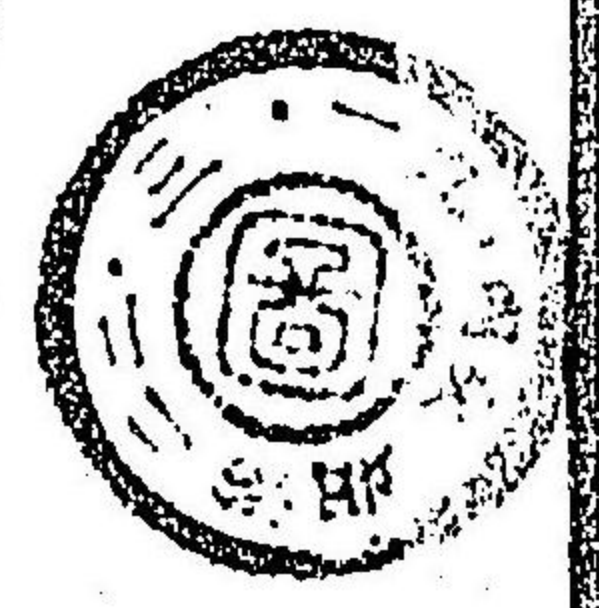
憲法義解序



必ず無る可からざる者ある
から辯せざるを待たざる
る可からざる者あるハ

皇御向に我か

聖天子親ら制定の誓を承らせ



多きこと之を我々の臣民の宣布
せられざるおはせ給ぬ我々の臣民
なる者の善き事

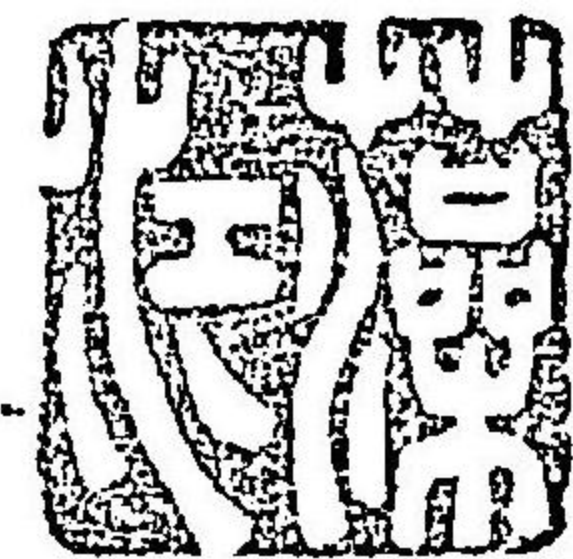
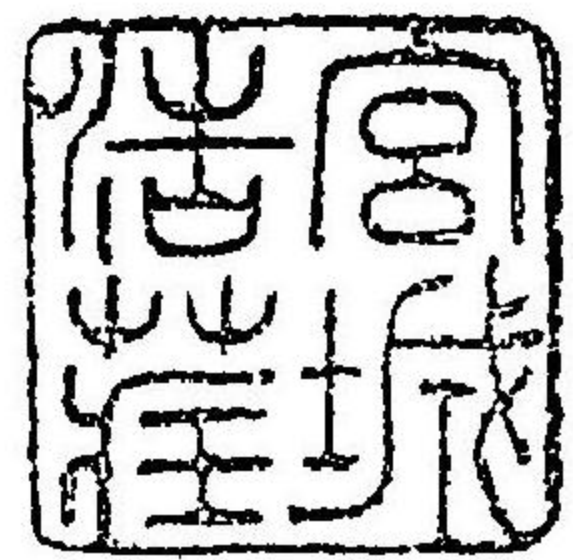
虚言を奉りし憲法發布
の勅諭あるか如く相共お和
衷協同し益利か希むの光榮を

争ひに當りては唯恐
る其意義深き一語便ち解し
易あらば遂にお互に教養の失千里
の差致す者何らむこと我
か明治法律学校校友佐藤松
井吉氏此を觀る竹あり之を註

釋を施し命けり憲法親解
と曰ふ將きお之き世におけおせむ
と曰來りてし知さるお求むる予
乃ち此註釋の叙か板友の年以
成るをとき其心一語を卷首にお
兼は

憲法親解後十有八日

宮城浩藏撰



告 文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚
ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進
運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ
率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼賛ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ
益國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室
典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ經述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神勅ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲカラムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此レヲ鑒ミタマハ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕且之、皇祖ノ徳ヲ尊ビテ、臣民ノ位ヲ尊ビテ、朕ノ見聞スル所ノ臣民
ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康
福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ
依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十
月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ
朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知
ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ
朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサ
ルヘシ
朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法

及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス
 帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此
 ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ
 將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至
 ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ
 此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民
 ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
 朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕
 カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘ
 シ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 子爵森有禮
- 遞信大臣 子爵榎本武揚

帝國憲法義解

例言

一此書ハ泰西學者ノ諸說ヲ參酌シ我帝國憲法ノ淵源ヲ討究シ
主トシテ立法ノ精神ヲ明カニシタル者ナリ唯恐ル余等ノ淺
學寡聞ナル或ハ其真意ヲ闡發スルコト能ハサランコトヲ
一此書ハ書肆ノ切望ニ因リ匆匆稿ヲ起シテ活版ニ附セシ者ナ
レハ素ヨリ沈思反覆ノ暇ナク從テ其杜撰モ亦尠ナカラサル
ヘシ加之二人ノ手ニ成リシ者ナルヲ以テ自ラ其文脈ノ一致
ヲ得サルノミナラス或ハ同一ノ意義ヲ有スル箇所ニ種々ノ
文辭ヲ用ヒタルモノアラシク讀者ヲシテ爲メニ異様ノ感ヲ抱
カシムルナキヲ保セス若シ夫レ讀テ解セス思フテ得サルモ

二
ノアヲハ幸ニ一片ノ忠告ヲ垂レヨ將サニ再版ノ期ヲ得テ訂
正スル所アラントス

明治二十二年二月

著者識

○帝國憲法義解……………一

○第一章 天皇……………五

○第二章 臣民權利義務……………五一

○第三章 帝國議會……………一〇九

○第四章 國務大臣及樞密顧問……………一六七

○第五章 司法……………一七七

○第六章 會計……………一九一

○第七章 補則……………三三一

○議院法……………一〇

○衆議院議員選舉法	一八
○同上附錄	四〇
○會計法	六二
○貴族院令	七二

帝國憲法義解

宮城浩藏先生校閱

明治法律學校々友

佐藤治三郎 著

憲法ハ一國公法ノ基礎トナル可キ原則即チ臣民ニ政治上宗
 教上民事上ノ權利ノ所有及ヒ其實行ヲ保證スルノ原則ヲ定
 ムルモノナリ言ヲ換ヘテ之ヲ言ハ、治者被治者ノ關係ヲ正
 シ官民ノ分限ヲ定メ政府ノ職權臣民ノ權利ヲ明ラカニスル
 モノナリト謂フヘシ
 然リ而シテ臣民ノ之レヲ大ニ尊重敬崇シ以テ身子委ヌヘキ
 大本ノ法トナシ之レヲ望ムト恰モ大旱ノ雲霓ヲ望ムカ如ク
 渴望シテ止マサルハ蓋シ大ニ理由ノ存スル所アレハナリ若

シ國ニ憲法ノ設ケナカラシ平則チ彼我平等ノ權利ヲ得ル能ハス政治上參與ノ權利ナキヲ以テ自己ノ財產ヲ他人ノ爲ニ處分セラル、ノ憾ナキ能ハス民事上所有權ノ確保ナキヲ以テ今日幾萬ノ財產ヲ有スルモ明日ハ他人ノ爲ニ侵奪セラル、ノ憂ナキ能ハス又宗教上言論上ノ自由ナキ時モ亦大同シク自己ノ歸依スル宗教ヲ信仰シ自己ノ意見ヲ發表吐露スルニ由ナカルヘシ果シテ以上畧陳セシ如クナルトキハ萬物ノ上ニ位スル人間トハ言ヘ是レ唯ニ其虛名ヲ存シテ其實ナキ者ト言ハサル可カラス今、人ノ人タル所以ヲ存シ人民各自ヲシテ自己ノ權利ノ範圍ニ於テ充分ニ運動セシメ政治上ニ宗教上ニ民事上ニ其權利ノ所有及其實行ヲ保證シ以テ臣民ヲシテ其堵ニ安セシムルモノハ是レ憲法ナリ果シテ然ラハ憲

法ノ社會ニ必須ナル言ヲ待テ知ラサルナリ

嗚呼是レ明治二十二年二月十一日紀元ノ大節ニ於テ我敎聖文武ナル天皇陛下ハ非常ノ御英斷ヲ以テ憲法ヲ發布アラセラレタル所以ナリ

今日憲法ノ發布セラレタリト聞カハ或ハ新タニ憲法ヲ定メラレタルカノ思ヲナスモノナキニアラサルヘシト雖トモ決シテ然ラス吾憲法ノ起因ヤ遠ク明治初年五ヶ條ノ御誓文ニ淵源スルナリ即チ今上ノ即位シ給フヤ首トシテ五事ノ御誓約ヲ立テサセ給ヒ廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決ス上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フ文武一途庶民ニ至ルマテ各其志ヲ遂ク人心ヲシテ倦マサラシメ舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基ツキ智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシト宣ヘリ依

是觀之今日發布セラレタル憲法ノ萌芽ハ全ク其當時ニ胚胎シタルモノト言フヘキナリ先キニ元老院大審院ヲ置キ又地方官會議ヲ開ラキ詔シテ曰ハク朕即位ノ初メ首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノカトニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願フニ中興日淺ク内治ノコト當ニ振起擴張スヘキモノ少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴張シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣クシ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ謀リ漸次ニ國家立憲ノ政躰ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ラントス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コトナク其レ能ク朕カ旨ヲ體シテ翼賛スル處アレト茲ニ於テカ立憲ノ聖旨愈顯ハレ愈確實トナリタルヲ知

ルヘシ是レ今日ノ憲法ハ今日成ルニアラシテ遠ク明治ノ初年ニ基因セリト云フ所以ナリ

既ニ陳ル如ク吾人ノ生命吾人ノ財産吾人ノ自由ハ一ニ此憲法ニ由リテ死生得失存亡ス然ラバ生命ヲ尊ヒ財産ヲ重シ自由ヲ欲スル者ハ常ニ講窮翫味ヲ怠ル可ラサルナリ是レ不肖淺學ヲ顧ミスシテ之レカ義解ヲ試ミント欲スル所以ナリ

第一章 天皇

本章ハ天皇陛下ニ關スル重大ナル事項ヲ規定シタルモノニシテ本法中最モ樞要ノ部分ナリ故ニ此章ハ最モ懇懇ニ最モ詳密ニ説明セントス去リナカラ吾人臣民ノ分トシテ濫ニ議論ヲ挿ムハ敢テ天威ヲ冒ス恐レナキニアラスト雖トモ苟モ本法釋義ノ任ニ當リ吾人共ニ依テ以テ其堵ニ

安スルヲ得ル處ノ大憲ヲ明ラカニセサルノ憾ナカラシメ
ント欲セハ勢ヒ陛下ノコトニ及ハサルヲ得ス然レトモ斯
ノ如キ場合ニ際シテハ最モ慎ミニ慎ミヲ加ヘテ詳説遺漏
ナカラシメントス

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之レヲ統治ス

本條ハ我日本帝國ハ萬世一系ノ天皇ニヨリテ知ロシ召サ
レ皇統連綿天壤ト共ニ不窮ニ繼承シ帝位ハ臣民ノ敢テ覬
覷スヘキ處ニアラサルコトヲ示シタルモノニシテ實ニ緊
要ノ法條ナリ之レ開卷第一ニ明記シタル所以ナリ
情ヲ惟ルニ我日本帝國ハ我祖神武天皇躬ヲ弓馬ノ勞ヲ厭
ハセ給ハス櫛風沐雨ノ御困難ヲ經サセ給ヒ荒蕪ヲ闢ラキ
匪徒ヲ征服シ遂ニ全國ヲ平定シ我大日本帝國ノ基礎ヲ立

テサセ給ヒシヨリ茲ニ二千五百有餘年間臣子民人ノ大平
ニ浴シ其堵ニ安ンシテ今日アルヲ得ルハ偏ニ祖宗ノ恩澤
ニ依ラスンハアラサルナリ去レハ我帝國ノ皇統ハ神種ナ
リ我日本ノ帝位ハ萬世一系ナリ是レ我國ノ宇内萬國ニ比
類ナキ所ニシテ吾人臣民タルモノ、最モ尊重スヘク最モ
敬服スヘキ大義ナリサレハ特ニ爰ニ之レヲ規定セサルモ
臣子ノ分トシテ帝位ヲ覬覷スルカ如キハ萬々アリ得ヘキ
ニアラサレトモ國土ノ廣キ人民ノ多キ千歳ノ後チ或ハ狂
者ノ出ルナキヲ保シ難シ若シ此レ等ノモノ不軌ヲ謀ルア
ラン乎啻ニ帝室ニ對スル逆賊タルノミナラス實ニ國家ノ
大逆賊タルモノナルコトヲ知ラシムルタメ殊ニ之レヲ本
條ニ規定セラレタルナリ

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之レヲ繼承ス

第一條ニ於テ皇統ハ萬世不易ニシテ一系ノ天皇之レヲ統治シ決シテ臣民ノ左右スヘキモノニアラサルコトヲ規定シタリ而シテ其皇位ハ何人ノ繼承スヘキモノナルカハ本條ノ明示スル所ニシテ皇位ハ獨リ皇男子孫ノミ承繼スヘク皇女ハ決シテ即位スルノ權利ナキコトヲ知ルヘキナリ而シテ其之レヲ繼承スル順序ノ如キハ皇室典範ノ定ムル處ナレハ其詳細ハ皇室典範ニ就テ見ルヘシ

皇位繼承ノ事ヲ公クニ皇室典範ニ於テ規定スルハ天威ヲ冒ス憚アレハ竊慮ニ任セ參ラセシコト其當ヲ得タル者ナルカ如シト雖トモ左ハセスシテ之レヲ該法ニ規定シタル

ハ其理由ナクンハアラス此繼承ノ事タルヤ國法上ニ於テ必ラス豫定スルコト肝要ナリ其ノ然ル所以ハ若シ豫シメ之ヲ確定シ置カサルトキハ動モスレハ此事ヨリ不測ノ禍害ヲ惹キ起ス恐レナキニアラサレハナリ去レハ此事ヲ豫定シ置クト否トハ國家ノ安危ニ關スル甚々重大ノコトト謂フヘキナリ

皇位ヲ繼承カセ給フコト皇男子ニ如クコトナキハ歴史ニ徴シテ明ラカナルモノナレハ敢テ説明ヲ要セス殊ニ我國ニ於テハ古來皇男子ノミ皇位ヲ繼承カセ給フコト(時ニ皇女即位ノ例ナキニアラサルモ)一ノ慣例トナリ居レリ是レ因襲ノ久シキ途ニ今日ノ法律トナリ皇男子ニアラサレハ皇位ヲ繼承カセ給フコト能ハスト定メタル所以ナラソカ

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

本條ハ文字上ヨリ一見スルトキハ果シテ如何ナル意義ヲ有スルヤ漠トシテ明ラカナラスト雖トモ之レヲ單純ニ解スルトキハ天皇陛下ハ自己ノ處置ニ付テハ責任ヲ負ハセ給ハスト云フニ在リ

而シテ陛下ニハ何故ニ責任ヲ負ハセ給ハスヤ此事ニ付キテハ古來各國ニ於テ學者間大ニ議論アル處ニテ未タ一定ノ説ヲ聞カスト雖トモ昔羅馬ノ國法ニ於テハ民主政體ノ時ニ於テスラ尙其職掌區域内ノ事ニ付テハ責任ヲ負ハシメサリキ又昔時或一二ノ國ニ於テハ全ク之ニ反シテ縱令君主ト雖モ必ラス其責ニ任スルヲ以テ至當ノ事トナシタリ然レモ方今君主國一般ノ有様ニ就キテ觀察スルトキハ

全ク羅馬ノ法ノ如ク君主ハ敢テ其責ニ任セサル者トス今其無責任ナリト云フ理由ノ因ツテ起リシ所以ヲ尋ヌルニ若シ主長タル者自己ノ處置ニ付キテ必ラス責任ヲ負ハサル可ラサルノ法ヲ立ツルトキハ主長ノ威嚴遂ニ之レカ爲メ減殺セラレ且其尊貴顯榮ハ之レニ因テ夷滅セラル、ニ至ラン加之主長タルモノニシテ自己ノ處置ニ付キテ其責ニ任スルモノトスルトキハ國家ノ主權者ニシテ其臣民ノ審判ヲ受クルモノナリ如斯ハ國家ノ秩序ヲ害スルモノニシテ君主國ノ原則ニ於テ許スヘカラサルモノナリ是レ君主ニ責任ノ存セサル所以也

方今ニ在テハ各國皆君主無責任ノ制ヲ用ユルハ右ノ理由ニ基ツクモノナルヘシト雖トモ此制ヲ行フト同時ニ責任

大臣ノ制ヲ設ケ以テ大臣ヲシテ君主ニ代リテ其責任ヲ負
擔セシム故ニ立憲君主國ニ於テハ天皇ノ政令ニシテ其効
力ヲ有センニハ必ラス大臣ノ副書アルコトヲ必要トセリ
而シテ其副書セシ大臣ハ其事件ニ就キテハ責任ヲ有ス譬
ヘハ其政令若シ憲法ニ悖戾スルカ如キ事アルトキハ其責
ハ大臣ニ任セサルヘカラサルナリ
斯ノ如ク大臣ハ君主其政務ニ於ケル責任ヲ己レニ有スル
ヲ以テ君主ノ政務若シ民衆ノ輿論ニ背キ又ハ一國ノ安寧
ニ害アリト思惟セハ飽ク迄モ之レヲ諫諍スベキヲ以テ自
ラ任セサルヘカラス我憲法モ第五十五條ニ於テ大臣責任
ノ制ヲ設ケリ詳細ハ同條ニ於テ陳述スヘレ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ

條規ニ依リ之レヲ行フ

本條ハ天皇陛下ハ國家ノ最上權力者ニシテ所謂統治ノ權
利ヲ主持シ給ヒ憲法ノ規定ニ從ヒ此權ヲ行ハセラルヘキ
事ヲ定メタルモノナリ
諸天皇陛下ハ萬衆ノ上ニ立タセ給フモノナレハ國家ノ主
宰ニシテ國權ヲ總攬アラセラル、ハ申ス迄モナキコトナ
リ然ラハ天皇陛下ハ如何ニシテ斯大權ヲ執リ行ハセラル
、カ或ハ陛下御一身ニテ取リ行ハセ給フモノニハアラサ
ルヤノ疑ヲ爲ス者アルヘケレトモ之レ決シテ然ラス立法
ノ事務ハ議會ヲ設ケテ之レニ委任セラレ行政ノ事務ハ内
閣ニ托シテ之レヲ實行セシメラル而シテ陛下ハ其上位ニ
立タセ給ヒ之レヲ統治スルノ權利ヲ行ハセラル去レハ皇

大臣ノ制ヲ設ケ以テ大臣ヲシテ君主ニ代リテ其責任ヲ負
 擔セシム故ニ立憲君主國ニ於テハ天皇ノ政令ニシテ其効
 カヲ有センニハ必ラス大臣ノ副書アルコトヲ必要トセリ
 而シテ其副書セシ大臣ハ其事件ニ就キテハ責任ヲ有ス譬
 ヘハ其政令若シ憲法ニ悖戾スルカ如キ事アルトキハ其責
 ハ大臣ニ任セサルヘカラサルナリ
 斯ノ如ク大臣ハ君主其政務ニ於ケル責任ヲ己レニ有スル
 テ以テ君主ノ政務若シ民衆ノ輿論ニ背キ又ハ一國ノ安寧
 ニ害アリト思惟セハ飽ク迄モ之レヲ諫諍スベキヲ以テ自
 ラ任セサルヘカラス我憲法モ第五十五條ニ於テ大臣責任
 ノ制ヲ設ケリ詳細ハ同條ニ於テ陳述スヘシ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ

條規ニ依リ之レヲ行フ

本條ハ天皇陛下ハ國家ノ最上權力者ニシテ所謂統治ノ權
 利ヲ主持シ給ヒ憲法ノ規定ニ從ヒ此權ヲ行ハセラルヘキ
 事ヲ定メタルモノナリ
 惟天皇陛下ハ萬衆ノ上ニ立タセ給フモノナレハ國家ノ主
 宰ニシテ國權ヲ總攬アラセラル、ハ申ス迄モナキコトナ
 リ然ラハ天皇陛下ハ如何ニシテ斯大權ヲ執リ行ハセラル
 、カ或ハ陛下御一身ニテ取り行ハセ給フモノニハアラサ
 ルヤノ疑ヲ爲ス者アルヘケントモ之レ決シテ然ラス立法
 ノ事務ハ議會ヲ設ケテ之レニ委任セラレ行政ノ事務ハ内
 閣ニ托シテ之レヲ實行セシメラル而シテ陛下ハ其上位ニ
 立タセ給ヒ之レヲ統治スルノ權利ヲ行ハセラル去レハ皇

帝陛下ハ一方ニ於テハ立法ノ主長ニシテ一方ニ於テハ行政ノ主長ナリ故ニ立法院又ハ行政府ノ百官有司ハ總テ天皇陛下ノ耳目手足トナリテ其事務ニ従事スルモノナリ右ノ旨趣ナルヲ以テ第六條ニモ明示アル如ク假令議會ニ於テ議決シタル事項ナリト雖トモ未タ直チニ法律ノ効力ヲ有スルモノニアラス必ラス陛下ノ御裁可ヲ仰カサルヲ得ス且又行政ノ事ニ於テモ其百官有司ノ措置ハ取リモ直サス陛下ノ命シ給フ處ニシテ畢竟陛下ノ親シク御實行アラセラル、ト同一ナリ故ニ之レヲ詳言セハ一點ノ中心(陛下)ニ一纏セル國權ヲ分チテ諸方ニ依托セラル、モ其統治ノ大權ヲ有セラル、ハ天皇陛下ナレハ苟モ其執行ノ事務ノ効力ヲ有セシムルト有セシメサルトハ總テ天皇陛下

ノ勅慮ニアリト謂フヘキナリ而シテ條文中此統治ノ權ハ此憲法ノ條規ニヨリテ之レヲ行フトハ蓋シ陛下ハ一國ノ元首即チ主權者ニハ相違ナキモ一旦憲法ヲ御制定アラセラルタル以上ハ此憲法ノ規定ニ悖戻アラセラル、コトアルヘカラサルナリ然ラサレハ憲法制定ノ聖旨ニ矛盾スヘケレハナリ是レ本條ニ此憲法ノ條規ニ從ツテ云々ト云フ所以ナリ而シテ此詳細ノコトハ各條ニ就テ研窮セン

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

本條ハ陛下ノ立法權ヲ施行シ給フニハ必ラス帝國議會ノ協賛シ奉ルヲ必要トシ凡テ法律ハ其協賛ニヨリテ御施行アラセラル可キ旨ヲ確定シタルモノニテ君民共治ノ政體ニ於テハ實ニ緊要ノ法條ナリ

國家統治ノ大權ハ陛下ノ掌握シ給フ處タルハ予輩既ニ第四條ニ於テ詳説セリ然ルニ陛下立法權ヲ御施行アラセラル、ニハ必ラス國會ノ協賛ヲ要スルトセハ立法ノ權ハ全ク帝國議會ニ存シ從ツテ前條ト矛盾スルカノ誤解ナキヲ保シ難シ依テ予輩ハ其贅辨タルヲ願ミス其決シテ矛盾スルモノニアラサルヲ明ラカコシ併セテ立法權ノ一部分ヲ割テ帝國議會ニ與ヘテレタル理由ヲ陳フベシ

或ハ曰ハク立法權ハ陛下ノ掌握シ給フハ第四條ニ於テ明瞭ナリト雖トモ帝國議會ノ協賛ヲ以テ行フト言ハ、或ハ帝國議會ニシテ協賛ヲ缺カン乎立法權ハ陛下ニ存スルモ之レヲ御施行アラセラル、ニ由ナシ然ラハ立法權ハ寧ロ帝國議會ニ存スルニアラスヤト是レ單ニ本條ニノミ拘泥

シテ他ノ條文ヲ參照セサルニ生スルモノナリ

既ニ前條ニ一言シ又次條ニ詳説スル如ク陛下ハ法律裁可ノ權ヲ掌握シ給フ然ラハ帝國議會ノ修正可決シ以テ奏上スル法律案ト雖トモ或ハ裁可ヲ得サルモノナキニ非ス然ルトキハ決シテ法律タルヲ得サルナリ然ラハ立法權ハ全ク陛下ニ存シテ帝國議會ハ毫モ立法上ノ權ナキ乎否本條ノ明示スルカ如ク立法事務ハ總テ帝國議會ノ協賛シ奉ルニアラサレハ陛下決シテ之レヲ御實施アラセラレサルモノナレハ此點ヨリシテ論窮スルトキハ立法權ノ一部ハ帝國議會モ亦タ之レヲ有スルモノト言ハサルヲ得ス然ラハ法律ハ陛下ト帝國議會ノ協賛トニ成立スルモノニシテ本條ハ決シテ前條ニ抵觸スルモノニアラサルハ明ラカナラ

ノ是ノ實ニ君民共治ノ政躰ニ於テ已ムヘカラサルナリ而シテ政躰ノ君民共治タラサル可カラサルハ古今ノ事跡ト各國ノ經驗ニ徴シテ明ラカナリ是レ至仁至聖ナル陛下ノ此民ニ與フルニ參政ノ權ヲ以テシ此憲法ニ由ツテ帝國議會ヲシテ立法權ノ一部ヲ有セシメ給ヒシ所以ナリ吾人臣民ハ平素我國躰ノ萬國ニ比類ナキヲ誇稱スルノ樂ノミナラス今又東洋諸國古今比類ナキ此政躰ノ治下ニ浴ス之レヲ内ニシテハ以テ益々皇基ノ鞏固臣民ノ幸福ヲ致シ之レヲ外ニシテハ東洋諸國文明ノ指針者ヲ以テ自ラ誇稱スルニ足ル宜ナリ憲法發布大詔ノ降下アルヤ國民舉ツテ天恩ノ優渥ナルニ感泣シ陛下ノ萬歲ヲ祝シテ狂奔自ラ禁スル能ハサリシハ幸ニシテ義解者亦此盛世ニ會ス豈ニ讀

者ト共ニ此天恩ニ奉答スル所ナクシテ可ナラソヤ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ス

前條ニ於テハ天皇陛下ハ立法權ヲ行ハセ給フニハ議會ノ協賛ヲ經サルヘカラサルヲ述ヘ而シテ議會ノ協賛ニ依ラサレハ立法權ヲ行フヲ得スト言フニ至ツテハ或ハ天皇陛下ハ國ノ元首ニシテ無上無限ノ權力ヲ主持シ給フト言フノ原則ニ反スルニ非ラサルカノ疑問ヲ起シ陛下ハ御裁可權ヲ有シ給フヲ以テ此原則ニ背カサルヲ説明セリ裁可權トハ議決シタル法案ヲ真正ノ法律トナシ一般人民ヲシテ遵守スヘキ義務ヲ負ハシムル權力ヲ云フ而シテ立憲君主政躰國ニ在リテハ裁可ノ權ハ君主ノ掌握スヘキハ勿論ナリ若シ君主ニシテ此權ヲ有セサルトキハ議會ニ於

テ議決シタルモノハ即チ法律ニシテ君主ハ全ク立法權ナキナリ果シテ然ラハ君主ハ一國統治ノ權ナキモノニシテ君主國ノ原則ニ背戻ス是レ即チ天皇ハ法律ヲ裁可シ云々トアル所以ナリ故ニ若シ議會ニシテ國利民福ヲ害スルカ如キ議決ヲ爲スアラソカ陛下ハ之レニ對シテ裁可ヲ下シ賜ハラサルハ亦萬止ムヲ得サルナリ將來帝國ノ議員タルモノ純理ニ奔逸シ定理ニ拘泥シテ實際ノ時務ニ適切ナラサルカ如キ議決ヲ爲シ以テ慮ヲ煩ハシ此不認可權ヲ實際ニ見ルカ如キ事ナラソト切望シテ止マサルナリ夫レ如斯議會ニ於テ議決シタル法案ヲ法律トナスニハ天皇陛下ノ御裁可ヲ仰カサルヘカラス而シテ御裁可ヲ經タルノミニテハ單ニ法律トナリタルノミニシテ未タ臣民ノ

之レヲ遵守スヘキ義務ヲ生セシムル者トハナラサルナリ然ラハ即チ其執行力ヲ有セシムルニハ如何シテ可ナランカ執行ノ前ニ於テ公布ノ手續ヲ行ハサル可カラス公布ナケレバ臣民之レヲ知ルコト能ハス未ダ知ラサル法律ヲシテ直チニ之レヲ執行セントスルハ得テ爲ス可キニアラサレハナリ故ニ法律ハ實際ニ執行スルニ至ル迄ハ三段ノ階級ヲ經サル可カラズ即チ第一發案者ヨリ之レヲ議會ニ附シ議會ニ於テハ之レヲ反覆審議シ兩院過半數ノ協賛ヲ以テ之レヲ可決スル者ナリ○第二既ニ之レヲ可決シタルトキハ之レヲ天皇陛下ニ捧呈シテ御裁可ヲ受ケ是ニ於テ初メテ法律ノ効力ヲ有スルモノトス○第三假令有効ノ法律ト雖トモ之レヲ執行スルニハ公布ノ法式ヲ經サル可カラ

ス公布ノ法式ヲ經タル后初メテ臣民之レヲ遵奉スベキノ義務ヲ生ス如斯三段ノ階級ヲ經タルモノハ愈完全ノ法律ニシテ若シ之レニ反スルトキハ其制裁ヲ受クヘキナリ而シテ今日ニ在ツテハ法律ハ總テ官報ニ記載スルヲ以テ其公式ト定メ斯クシテ其執行ヲ實際ニ行ハシムルモノトス法律ノ公布ニ關スルコトハ明治十九年二月二十四日敕令第一號ヲ以テ公文式ナルモノヲ定メラレタリ而シテ法律命令ハ官報ヲ以テ公布シ官報ノ各府廳ニ到達スルノ後チ七日ヲ以テ施行ノ期限ト定メラレタリ

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命ス

帝國議會ハ國家立法ノ職任ヲ有スルモノニシテ其組織ハ

各府縣ノ代議士ヲ以テ成ル故ニ之レカ事務ニ預ラシメントセハ之レヲ召集セサル可カラサルハ明ラカナリ本條ニ依レハ陛下ハ之レヲ召集シ其開閉ヲ命スルノ權アリトアリ然ルニ其議事何等ノ妨害ナク安全ニ結了スルコトヲ得ハ實ニ國家ノ幸福ナリト雖トモ時ニ或ハ種々ノ事變ニ遭遇シ已ムヲ得ス其議事ヲ安全ニ終了スル能ハサル如キコトアルヲ免レズ而シテ其事變トハ果シテ如何ナルコトカハ今日ニ於テ預言スル能ハサルナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ此憲法ノ規定ニ依リ或ハ停會ヲ命シ或ハ解散ヲ命スヘキナリ

解散ト停會トハ異ナルモノニシテ停會ハ行政上ノ都合ニヨリ暫一時之レカ議事ヲ止ムル迄ニテ代議士ノ任ヲ解カ

ス解散トハ議院カ憲法ノ條規ニ反シテ越權ノ處置アルカ
或ハ國家ノ秩序ニ反スル議事等ヲナシタル場合ニ於テ公
益ヲ保持スル爲メ陛下ハ之レカ撤去ヲ命スルモノナリ故
ニ停止ナルモノハ一時事情ノ存スル間議事ヲ止ムルモノ
ナレハ其事情ノ去ルト同時ニ議會モ又舊ニ復スル者ナリ
然ルニ解散ハ一時ノ者ニアラス絶對的ノモノナレハ一タ
ヒ解散スルヤ復生クヘカラス故ニ解散ノ場合ニ於テハ第
四十五條ニ從ヒ勅令ヲ以テ新タニ議員ヲ選舉セシムルナ
リ

本條ニ於テ特ニ注意ヲ要スルハ貴族院解散ノ事ナリ則チ
本條ニハ衆議院解散ノ事ノミヲ規定シ貴族院解散ノ事ヲ
定メス之レ大ニ理由ノ存スル所ナリ余輩ノ見ル處ヲ以テ
セハ凡ソ貴族院ハ一國門閥ノ原素ヲ代表スルモノニシテ
其組織ハ載セテ貴族院令第一條ニアリ則チ皇族華族及ヒ
勅任ノ議員ニテ其大部分ハ世襲又ハ終身ノ職ナルヲ以テ
其組織ハ解散スヘカラサル性質ナリト言ハサルヲ得ス蓋
シ假令之レヲ解散シ新タニ召集スルモ其召集ニ應スヘキ
議員ハ畢竟前キニ解散セシ議員タルニ過キサレハナリ故
ニ曰ハク貴族院ハ其組織上ニ於テ解散スヘカラサル性質
ヲ有スト

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル
爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代
ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スベシ若議會

ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向ツテ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

天皇陛下ノ立法權ヲ行ハセ給フニハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス苟モ議會ノ協賛ヲ得ント欲スレハ之レヲ召集セサル可カラス之レヲ召集スルニハ開期ノアルアリ濫リニ召集シ得ヘキ者ニアラス然ルニ突然公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災害ヲ避クルノ必要アリテ之レカ爲メニ法律ヲ制定セサルヘカラサルトキハ如何セハ可ナランカ是レ本條ノ規定ヲ要スル所以ナリ即チ其言フ所ニ依レハ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ此ノ如キ必要ノ生シタルトキハ陛下ハ法律ニ代フルヘキ勅令ヲ發スト蓋シ此場合ノ生スル開會中ナリセハ直チニ議會ニ附シ之レニ應スル法律ヲ制定ス

ルコトヲ得ヘキヲ以テ其緊急ノ必要ヲ滿足スヘシト雖トモ若シ閉會ノ後ニ生シタル場合ニ於テモ猶ホ且ツ通常ノ手續ヲ以テスヘキモノトスルトキハ空シク手ヲ束テテ其災害ノ至ルヲ傍觀シ其所分ヲ爲スコト能ハサルニ至ル果シテ然ラハ民衆保護ノ責任ニ背戾スルモノナリ是レ本條ノ特例ヲ設ケ陛下ハ臨機法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發セラルヘキ場合アル所以ナリ

然ルニ茲ニ一ノ注意スヘキアリ即チ第四十三條ニ於テ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スルコトアル旨ヲ定メアレハ本條ノ如キ場合ニ於テ法律制定ノ必要アラハ或ハ臨時會ヲ召集スルモ妨ケナキカ如クナレトモ本條ノ示ス場合ハ其臨時會ヲ召集スルノ暇ナキ場

合ヲ云フ。

第二項ハ第一項ニ於テ發シタル敕令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シテ議會ノ承諾ヲ得ヘシ若シ議會ニ於テ之レヲ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向ツテ其敕令ノ無効タルコトヲ公布スルモノナリ是レ其妥當ヲ得タルモノト云フヘキナリ何トナレハ此敕令ハ最モ緊要ナル否緊急ヲ要スヘキモノナルヲ以テ已ムヲ得ス特別ヲ以テ發シタルモノニシテ行政上臨機ノ所置タルニ過キス、サレハ此臨機ノ處置ヲ以テ直チニ法律ノ効力ヲ有セシメ臣民ヲシテ將來遵守スヘキモノトナスハ道理ノ許サ、ル所ナリ是レ此敕令ヲシテ將來ニ向ツテ有効ナラシムルニハ議會ノ承諾ヲ得サル可カラサル所以ナリ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ

保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ錯雜ナルヲ以テ之レヲ以下ノ三段ニ分ツテ説明セ
ントス○第一天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ命令ヲ發シ又ハ發セシムルコト○第二公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムルコト○第三命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコト是レナリ
第一 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ命令ヲ發シ又ハ發セシムルコト

夫レ法律ヲ制定シ以テ社會ノ秩序ヲ正スハ立法者ノ職任ナリト雖トモ徒ラニ之レヲ制シ徒ラニ之レヲ定ムルモ苟

モ之レヲ實際ニ施行スルノ方法ヲ用ヒザレハ法律其効用ヲ奏セス所謂徒法ニシテ終ニ社會ノ秩序得テ正スヘカヲナルナリ是レ陛下ハ法律ヲ執行スル爲メ命令ヲ發スル所以ナリ故ニ其所謂命令ナルモノハ法律ニ於テ定メタル原則ヲ施行スル爲メニ制定シタル行政規則ナリト云フヘシ又命令ヲ發セシムトハ果シテ何人ナシテ之レヲ發セシムルモノナルトヤ言フニ内閣總理大臣各省大臣府縣知事ヲシテ之レヲ發セシム即チ閣令省令及ヒ府縣令是レナリ既ニ屢々説明シタル如ク陛下ハ一方ニ於テハ立法ノ主長ニシテ一方ニ於テハ行政ノ主長ナリト言ヘトモ親ラ之レヲ施行シ給フコトハ到底能ハサル所ナルヲ以テ之レヲ各部ニ委托シテ執行セシムルモノナリ故ニ其事項ニシテ其區域全國ニ關スルトキハ陛下ノ命令ヲ以テシ其區域一府縣ニ關スルトキハ府縣令ヲ發スルモノトス又我國ニ於テハ敕令ヲ以テ發スヘキ性質ノモノト雖トモ多クハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ニ委托セラレ閣令又ハ省令ヲ以テ行政上ニ於ケル規則ヲ制定セシムルコト、ナレリ因テ敕令ト府縣令トノ間ニ閣令又ハ省令ナルモノアリ右述フル所ニ依ツテ觀レハ各官廳ノ命令ヲ發スルハ其各部固有ノ權力ヲ以テ制定スルニアラス皆陛下ノ直接間接ノ委托ヲ受ケテ然ルモノナルコトヲ忘ルヘカラス

第二 公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムルコト是レハ公共ノ安寧ヲ害シ秩序ヲ紊ルカ如キ場合及ヒ臣民

ノ幸福ヲ増進スルニ必要ナル場合ニ於テハ陛下ハ躬ヲ命令ヲ發シ又ハ行政各部ノ長ヲシテ發セシメ以テ其臣民ヲ保護スヘキヲ云ヘリ

第三 命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得サルコト

前已ニ述フル所ノ命令ハ立法權ノ規定シタル法律ノ範圍内ニ於テ行フヘキ行政規則タルニ過キスサレハ其行政權ノ制定スル所ノ命令ヲ以テ立法權ノ議定シタル法律ヲ變更スヘカラザルハ言ヲ俟タス

若シ夫レ命令ヲ以テ法律ヲ變更スヘキカ如キコトアラソ平今日立法權ノ制定シタル法律モ明日ハ直チニ行政權ノ命令ノタメニ廢セラレ又朝ニ立法權ノ否決シタル事項モ夕ニハ新ラタニ法律トシテ現出スルニ至ラン果シテ斯ノ

如クソハ國家ノ秩序何ヲ以テカ維持スルヲ得ン臣民ノ心身財產ハ何ニ依テカ安全ナルヲ得ン果シテ然ラハ是レ行政權ノ立法權ヲ蹂躪スルモノニシテ國權分立ノ原則ニ扞ルノ甚シキモノト云フヘキナリ是レ此命令ヲ以テ法律ヲ變更ス可ラサル所以ナリ

茲ニ注意スヘキコトアリ即チ第八條ノ勅令ト本條ノ命令トヲ混淆ス可カラサルコト是レナリ該條ノ敕令ハ國家危難ノ目前ニ迫リ緊急ノ必要アルニ方リ陛下ニ於テ無上ノ特權ヲ以テ發セラル、モノニシテ其効力ハ法律ニ代ハルヘキモノナレトモ本條ノ場合ハ此ノ如ク事甚々重大ナラス且此命令ハ法律ノ許ス處ノ範圍内ニ於テ發スルモノナレハ其効力唯一ノ行政處分上ノ規則タルニ過キサレハ此

兩條ノ間ハ實ニ雲泥ノ差アリト云フヘシ

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

君主ハ國家諸職官ノ資ヲ集攬スル所ナリ故ニ國家ノ諸職官ハ一トシテ君主ノ授任ニ出サルモノナク亦君主ニ從屬セサルハナシ故ニ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免スルハ陛下ノ獨リ自由ニシ給フ處ナリ

茲ニ行政各部ノ官制及文武官トアリ此等ノ意義ヲ知ラント欲セハ官ナル意義ヲ審ニセサル可ラス
官トハ公ケノ權力ニシテ立法權及行政權ノ事業ニ關ス

ルコトヲ云フ是ヲ以テ一國行政ノ事務ニシテ各府縣町村等ニ屬スルモノ及ヒ裁判事務ノ如キハ皆總テ官ノ事務ト云フモノナリ故ニ官制トハ立法又ハ行政ノ事務ヲ處辨スル諸般ノ官廳ノ組織及ヒ職權ヲ定ムルモノニシテ例ヘハ某省某官ヲ置キ何々ノ事務ヲ掌ルト定ムルカ如キナリ而シテ文武官トハ官制ニ隨ヒ其官務ヲ取扱フ者即チ官吏ヲ云フ

而シテ此官制及ヒ俸給ヲ定メテ文武官ヲ任免スルハ陛下ノ勅慮ニ在ルコトナレトモ但書ニ依テ見レハ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ルモノトストアリ此特例トハ果シテ如何ナルコトヲ云フヤ今其一ニノ例ヲ舉クレハ本法第五十八條ニ裁判官ハ法律ニ定メ

タル資格ヲ具フルモノヲ以テ之ニ任ストアリ又其二項ニ
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ所分ニ由ルノ外其職ヲ免
セラル、コトナシトアルカ如キ場合ニ在ツテハ假令ヒ陛
下ニ任免黜陟ノ權アリト雖トモ法律上ノ資格ナキモノヲ
以テ裁判官ニ任シ又ハ隨意ニ其職ヲ免スルコトヲ得ス必
ス第五十八條ノ規定ニ依ラサルヲ得サルモノトス而シテ
其他ノ法律トハ文武官任免ニ關スル種々ノ法律規則ニシ
テ亦陛下モ此等法律上ノ諸規則ニ依ルニアラザレハ隨意
ニ其文武ノ官職ヲ任免スルコトヲ得サルヲ云フ若シ憲法
及ヒ他ノ法律規則ニ於テ特例ヲ掲クルニモ拘ハラズ隨意
ニ任免スルヲ得ルトスルトキハ其憲法及ヒ諸般ノ法律ノ
旨ニ徒法ニ屬スルノミナラス依テ以テ生スル處ノ弊害亦

少シトセス是レ陛下ト雖トモ憲法及ヒ法律ノ範圍ヲ越ユ
可ラサル所以ナリ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

天皇陛下ハ一國ノ主權者ナレハ亦從テ兵馬ノ權ヲ掌握シ
給ヒ陸海軍ノ大元帥タルコト勿論ナリ故ニ親ラ陸海二軍
ヲ統轄シ軍兵ヲ募集シ其將校ヲ撰任シ而シテ之レニ號令
ヲ委任シ城塞ノ建築ヲ命シ及ヒ兵馬戰艦ヲ監督スルモノ
ナリ

夫レ國家兵馬ノ大權ハ國家ノ權勢ヲ發揮スル所以ノモノ
ニシテ此權ノ關スル所實ニ重大ナリ若シ此權ニシテ統一
スル處ナカラシ平内國家ヲ維持シ外侮リヲ防ク能ハス豈
恐レサル可ケンヤ各國古昔ノ有様ヲ見ルニ貴戚豪族各々

軍兵ヲ備ヘタリシカスクノ如クナルトキハ爲メニ兵權四分五裂ノ有様トナリ從テ國家ノ一致和合ヲ損シ其害終ニ一國ノ和平ヲ破ルニ至ル是レ即チ兵權ノ一途ニ歸セサル可ラサル所以ニシテ又其主權者ニ屬セサル可ラサルハ言ヲ待タスシテ明ラカナリ加之ナラス我帝國ニ於テハ兵權ハ古來天皇陛下ノ獨リ掌握シ給フ處ニシテ決シテ臣民ニ假シ賜ハザリシコト我帝國ノ大義ナリ斯クノ如クアリテコソ征伐天子ヨリ出ツルノ實ヲ見ル可キナリ

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

前條ニ於テハ天皇ハ兵馬ノ大權ヲ掌握シ給フコトヲ述ヘタリ既ニ大權ヲ掌握シ給フモノナルトキハ亦之ニ隨伴スル處ノ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ムルコトヲ得ルハ

喋々言ヲ待タサル處ナリ

昔時我國ニ於テハ全國兵ノ主義ヲ探リ別ニ兵制ノ設ケナク平時ハ各其職ニ安ンシ一旦事アルノ時ニ際スレハ臨時ニ之レヲ徵集スルノ制ナリシカ故ニ別ニ常備兵ノ設ケアラザリキ然ルニ降テ豪族四方ニ割據シ漸ク封建ノ勢ヲ爲スニ至リ爭亂常ニ已ム時ナキヲ以テ自然常備ノ軍兵ヲ置カサル可ラサル必要ヲ生シ茲ニ始メテ兵農全ク別ル、ニ至レリ今日ハ再ヒ舊ニ復シ何レノ國ニ於テモ全國兵ノ主義ヲ取リ且常備兵ヲ置カサル國ハナカルヘキナリ夫レ常備兵役ノ員數ハ其國ノ位置及ヒ隣國ニ關スル有様ニ從テ其多寡ヲ生スヘシ加之ナラス兵制ノ事タルヤ專ハラ財政ニ關スルモノナレハ國小ナレハ隨テ其員數モ亦寡カルヘ

ク之ニ反シテ國大ナレハ國庫ノ富裕ナルヘキニヨリ多員
數ヲ徵集スルモ差支ナカルヘシ要スル所兵員ノ多寡ハ其
國ノ整頓スルト否トニヨルモノナリ若シ政府ノ處置權勢
ニツナカラ欠クル處ナケレハ國內ノ安寧ヲ保護スルカ爲
メ僅カニ少數ノ常備兵ヲ設備スレハ足レリ然ルニ若シ其
國ノ形勢自ラ外寇ノ侵襲ヲ受ケ易キ患アルカ又ハ隣邦ノ
交誼既ニ破ル、ニ至リ隣邦未タ其境上軍ヲ退去セサルト
キ等ニ當リ其侵襲ヲ防禦シテ國家ノ安寧ヲ保タシヨハ實
ニ之ニ對スヘキ兵備ナカル可ラス此時ニ於テ僅々ノ常備
兵ヲ備フルノミニテハ決シテ國家ノ危險ヲ濟フニ足ラス
陛下ハ既ニ兵馬ノ大權ヲ掌握セラル、コトナレハ此等ノ
事ハ陛下ノ聖慮ニヨリ適宜ニ御處置アルコトナルヘシ

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ス

本條ハ開戰ヲ宣ヘ和平ヲ講スルコト及諸般ノ條約ヲ締結
スルノ權利ハ獨リ天皇陛下ノ有シ給フヘキ所ナルヲ示シ
タルモノナリ
宣戰講和ノ權ハ實ニ陛下ノ掌握セララル、所ナリ是ヲ以テ
將校或ハ軍隊ノ君命ヲ待タスシテ往々外國ト戰端ヲ開ク
事アルヘシト雖トモ敢テ開戰ヲ宣告スルコトヲ得ス又君
命ヲ待タス中途ニシテ休戰スル事アルヘシト雖モ敢テ和
解ヲ講スルコトヲ得ス君主ハ國家ニ代リ以テ外國ニ對シ
國威ヲ維持セサルヘカラス故ニ苟モ國家ニ對シ侮辱ヲ加
フル者アル時ハ君主ハ直チニ獨斷ヲ以テ開戰ヲ宣告シテ
國家ノ尊榮威力ヲ發耀スルモノナリ

或ハ曰ク宣戰講和ノ權ハ實ニ國家安危ノ繁ル處ナレハ決シテ輕々ニ付スヘカラス我カ敵聖ナル陛下ノ御英旨ニ出ツル所ナレハ其過チナキハ萬々疑ヒナキ所ナレハ宣戰講和ノ事ハ一應之ヲ議會ニ附シテ然ル后御裁可アラセラル、事トナサハ尙ホ其確實ヲ得ルナルヘシト云フ者ナキコアラサレトモ是レ外交ノ事ヲ知ラサル者ノ言ノミ何ハナレハ若シ議會ヲシテ宣戰講和ノ議ニ參與セシムル時ハ議事紛雜爲メニ其機ヲ失シ遂ニ陛下ノ御威嚴ヲ損シ且ツ國家ヲシテ危殆ノ地位ニ陥ル、ニ至ル豈慎マサルヘケンヤ蓋シ宣戰講和ノ如キ外交ニ關スル事ハ必ス其事實ヲ深思シ其將來ヲ熟考シテ惟一ノ意見ヲ以テ之ヲ決定シ時ヲ移サス神速ニ之ヲ舉クルコト最モ緊要ナリ然ルニ議會ノ如

キハ黨論數派ニ分レ評議容易ニ一決セサルヲ以テ遲延遂ニ其機ヲ失フニ至ル是レ全ク外交ノ事ヲ知ラサル者ノ言ナリト云フ所以ナリ

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

戒嚴令トハ戰爭若クハ非常ノ事跡即チ大危亂ノ起リタル時兵備ヲ以テ全國或ハ一地方ヲ警戒スルヲ云フ抑モ陛下ハ社會ノ靖寧ヲ保チ邦土ノ治安ヲ圖ルノ重任ヲ負ハセ給フカ故ニ之ヲ救護センカ爲メニハ戒嚴ヲ宣告シ假令ヒ一時臣民ノ權利ヲ毀損シ或ハ現在ノ法律秩序ヲ害スルモ敢テ妨ナキモノトス實ニ國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ一二民人ノ權利ヲ枉クルハ勿論多數民人ノ權利ト雖トモ必ス之

ヲ犧牲ニ供セシメサルヲ得サルハ亦止ムヲ得サルナリ
天皇陛下ハ既ニ兵馬ノ大權ヲ掌握シ陸海軍ノ大元帥タリ
故ニ國家ノ危亂ヲ救フニ際シ戒嚴ヲ宣告スルノ大權ヲ掌
握シ給フハ勿論ナリ而シテ第二項ニ於テ其戒嚴ノ要件及
ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルトアルハ則チ明治十五年
八月太政官第三十六號布告ヲ指稱セシモノナリ

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

本條ノ爵位勳章ハ或ハ施政上ニ或ハ軍事上ニ或ハ學術上
ニ於テ勳功ヲ奏セシモノニ其勳功ヲ賞シ且ツ之レカ獎勵
ヲ圖ルカ爲メニ與フルモノナリ凡テ臣民ノ名譽顯達ヲ表
彰スルハ天皇陛下ノ權内ニシテ實ニ臣民ノ勳勞ヲ鑑査シ
テ之レニ勳位ヲ與フルハ陛下ノ至善至美ノ特權ト云フヘ

キナリ抑モ一國ノ主治者タルモノ此特權ヲ行フテ宜シキ
ヲ得ハ能ク其僚屬ヲシテ其命ニ服セシメ能ク其臣民ヲシ
テ愛國ノ思想ヲ發揮セシムルヲ得ヘシ
由是觀之此權ハ政柄動止ノ繫ル所ニシテ政治ノ興廢社會
ノ安危ハ一ニ斯權施行ノ得失如何ニ存スルモノト謂フヘ
シ而シテ陛下ハ何故御一身ニ此大權ヲ有シ給フヤト云フ
ニ假令ヒ政府ニ此任ヲ托スルモ果シテ能ク其職ヲ全フス
ルヲ得ヘキヤ否ナ得テ望ム可ラサルナリ何トナレハ原來
政府ナルモノハ社會萬ノ俗務ニ齟齬シ殊ニ責任内閣ノ
制ニ於テハ各政黨互ニ自ラ取テ其地位ニ代ハラント欲ス
ルヨリ常ニ其ノ過失ヲ指摘シテ攻撃防禦ニ日モ亦タ足ラ
ス若シ政治ニ冷淡ナルノ眼ヲ以テ之ヲ傍觀セン乎實ニ雜

駁ニシテ厭忌ニ耐ヘサルヘシ斯クノ如キ者ヲシテ焉クソ
ソ能ク其榮譽ヲ發揮セシムルヲ得ン是レ即チ政府ニ任ス
可ラサル所以ニシテ勳功ヲ賞シテ愛國ノ思想ヲ發揮セシ
メ學者ヲ優待シテ其蘊奧ヲ究メシメ忠僕孝子ヲ表彰シテ
風俗ノ淳厚ヲ維持スルハ道德ノ中心名譽ノ燒點タル一國
ノ君主ノ外他ニ求メテ得可ラサルナリ是レ即チ陛下ノ此
大權ヲ掌握アラセラル、所以ナリ

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

天皇陛下ハ實ニ國ノ元首ニシテ統治權ヲ掌握シ給フモノ
ナレハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命セラル、ハ陛下ノ權内
ニ存スルヤ是レ亦 事ナリトス
大赦ハ刑法上罪トシ論スル所ノ所爲ヲ犯シテ既ニ刑ヲ受

ケタルカ若クハ將ニ受ケントスル者アラ、ンニ犯罪ノ性質
又ハ時勢ノ變遷等ヨリシテ社會ハ其事件ニ付キ人ヲ罰セ
サルコトヲ以テ利益トスルコトアラ、ン然ルトキハ之ヲ罰
シテ却テ社會ニ害アリ斯、ル場合ニ於テハ公訴權執行權
兩ツナカラ、之ヲ放棄シテ犯罪事件ヲ不問ニ附セサル可ラ
ス是レ大赦ノ因テ起ル所以ナリ而シテ大赦ハ罪刑共ニ赦
免スルモノニシテ多ク國事犯及ヒ特別犯罪ニ施ス所ノ恩
典ナリ
特赦ハ之ニ反シ其用方ニ於ケルヤ常ニ犯人ヲ目的トシテ
其事件ヲ問ハス從テ其刑ヲ免シ若クハ之ヲ減等スルニ止
マリテ其罪ヲ許サス而シテ之ヲ行フハ國事犯タルト常事
犯タルト夫問ハサルナリ

而シテ此特赦ヲ擯斥スル者ハ曰ク刑ニシテ必要ナリトセハ之ヲ免スル事ヲ得サルヘシ刑ニシテ不必要ナリトセハ之ヲ宣告スルニ及ハサルヘシ何ソ此特赦ノ如キ曖昧摸稜ノ法ヲ用ユルヲ要センヤト然リト雖トモ刑法ハ姑ク完全無欠ノモノト假定スルモ是レ事ノ大躰ヲ豫見シテ作りタル所ノ規則ニ過キス而シテ生スル所ノ事件ハ其狀千差万別ニシテ一定ナラス然ルニ曾テ豫見シタル所ノ刑ヲ以テ之ニ應セントセハ或ハ其刑ノ嚴ニ失スルナキヲ保セス又或ハ判官法ヲ適用スルニ於テ其過チナキヲ保セス此場合ニ至テ其罪ト刑トノ權衡ヲ保タントセハ特赦ヲ措テ他亦求ムヘキノ道ナシ且ツ犯人能ク邪惡ヲ改メ正善ニ歸シ所謂改悛ノ情アルモノハ再ヒ良民タルコトヲ得ルノ希望

ヲ開カサル可ラス然ルニ特赦ノ典ヲ存セサラン歟何ヲ以テ此希望ヲ開クコトヲ得ンヤ是レヲ以テ歐米各國皆此恩典ヲ存シ我國ニ於テモ亦此例ヲ採用セシ所以ナリ復權トハ犯罪ニ因テ失フタル公權ヲ回復スルヲ云フ夫レ重罪ヲ犯シタル者ハ終身其公權ヲ剝奪シテ再ヒ公事ニ關係スルノ權利ナシトセハ犯者何ノ望ム所アツテカ過テ改メ善ニ遷ルノ心ヲ起スヘキ之ヲ獎勵センニハ又宜シク前途ノ望ヲ開キ吾人ト共ニ齒ス可ラサル犯者其人ト云ヘトモ尙クモ過テ悔ヒ善ニ遷ルノ狀情アルモノハ再ヒ社會ニ出テ吾人ト同シク良民タルコトヲ得セシメサル可ラス是レ此復權ノ設ケアル所以ナリ夫レ斯クノ如ク大赦特赦及ヒ復權ハ或ハ社會ノ罪人ヲシ

テ無罪潔白ノ人トナシ或ハ法律ニ依テ科シタル刑ヲ消滅セシムルモノナレハ其事ヤ實ニ重大ナリ故ニ無上ノ權力ヲ有スルモノニアラサレハ之ヲ與フルノ權ナシ今我邦ニ於テ天皇陛下ヲ除キ他ニ之ヲ與フルニ適當ノモノアラサルヲ以テ此憲法ヲ以テ之ヲ勅裁ニ委テタリ

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル攝政ハ

天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

凡ソ攝政職ハ如何ナル場合ニ設クルヤト云フニ概テ君主幼冲ニシテ親ラ政權ヲ執ル能ハサル時ニ多シト雖トモ唯此レ等ノ場合ノミナラス或ハ久シキニ涉ルノ故障生シテ大權ヲ親ラスル能ハサル時ハ亦此職ヲ設クルヲ要ス之ヲ詳細ニ説明セント欲セハ陛下ノ御威嚴ニ對シ忌憚スル所

アルノミナラス此事ハ本條ニ云フ如ク皇室典範ニ規定スル所ナレハ茲ニ説明ノ要ヲ見ス

攝政其政權ヲ行フニハ陛下ノ御名ヲ以テスルモノトス蓋シ攝政ハ陛下ニ代リテ政柄ヲ執ルモノニシテ所謂ル代理者ナレハ苟クモ其政務ヲ行フニ於テハ委任者ノ名義ヲ用ヒサル可ラサルハ亦當然ノ事ナリトス

第二章 臣民權利義務

此章ニ於テハ吾人臣民タルモノニ正ニ享有ス可キ權利及ビ其負フ所ノ義務ヲ表明シタルモノニシテ本章ハ實ニ吾人ノ自主自由ノ權利ヲ尊重保證シ併セテ社會共存ノ歸旨ヲ明ラカニシタルモノナレハ直接ニ民人ノ休戚ヲ致シ其係ル所頗ル重シト云フ可シ

夫レ人ハ天性自由ノモノナリ自由ハ人々ノ日ニ求メテ之ヲ得ント希フモノニシテ古今天下ノ人實ニ自由ノ爲メニ奔走シ自由ノ爲メニ拮据ス是ヲ以テ人生アリテヨリ以來人ノ銳意シテ求索スル所ノモノ其狀千態其名万別ナリト雖モ約シテ之レヲ言ヘハ我身心ノ自由ヲ求ムルモノニ非ラサルハナキナリ而シテ其自由ヲ尙フハ宇内萬國ノ公論天地兩間ノ大勢ニシテ其ノ盛ナルヤ天下ヲ興ス可クソノ衰フルヤ天下ヲ亡ス可シ是レ古今有爲ノ君主恒ニ仁愛ヲ貴ビ有識ノ政府一ニ寛大ヲ尙フ所以ニシテ夫堯舜ノ興ル英政府ノ盛ナルハ皆此理ヲ服膺スルニ因ルナリ右ノ如ク自由ハ吾人人類ノ依テ生存スル所以ノモノニシテ斯社會ヲ結合スルハ畢竟其人々ノ最モ愛好貴重スル自

由權ノ安固ヲ得セシメント欲スルニ外ナラサレハ國憲ノ中ニ於テ斯人生頼ム可キノ權利ヲ排序列記シ其ノ得テ之レヲ犯ス可カラサルヲ言明シ政府ヲシテ其限ル所アルヲ知ラシメ臣民ヲシテ其守ル所アルヲ知ラシムルハ誠ニ斯天下ヲ統治シ其平安ヲ保クシムル爲メ最モ切ニシテ須與モ欠クヘカラサルモノナリ是レ本章ノ規定アル所以ナリ然レトモ人各天賦ノ自由アルト同時ニ自然ノ情慾アルヲ免カレス故ニ若シ之レヲ自然ニ委テ毫モ抑制スル所ナカラシ平弱ノ肉ハ強ノ食トナリ相侵シ相奪フテ止マス社會ハ常ニ安全ナル能ハサルニ至ラン於是乎大權ノ設ケアリ一定ノ法律ヲ設ケ各人ノ自由ニ爲シ得ベキト得ヘカラサルトノ限界ヲ明カニスルコトヲ要ス而シテ其限界ヲ明

カニスル所ノ法律ハ社會ノ安寧ト開達トヲ維持スルノ必要ニ因リ之レヲ設ケタルモノナレハ其効用ヲ顯ハスカ爲メニ已ム可カラサル抑制ハ其必要ノ區域ヲ過キサルトキハ決シテ不正ニアラザルナリ

彼ノ人ヲ殺傷スルノ惡事タル所以ハ之ヲ無要ノ時ニ用ユルカ爲メナリ若シ公衆ノ安寧ヲ維持シ社會ノ開達ヲ保護スルニ必要ナルトキ之レヲ用ユレハ決シテ惡トスルヲ得ス亦暴ト謂フヲ得サルナリ夫ノ接戰ニ際シ敵兵ヲ殺戮スルガ如キ又正當防衛ノ爲メニ兇徒ヲ殺戮スルカ如キ余輩其社會ニ功アルヲ知ルモ未タ嘗テ其害アルヲ知ラス斯ノ如ク社會ニ必要欠ク可カラサルニ方リテハ人ヲ殺傷スルモ不可ナキカ如ク其他ノ諸自由權モ社會必要止ムベカラ

サルニ於テハ之レヲ抑制スル敢テ妨ナキモノトス是レ本章中規定スル條文ニハ一々法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外又ハ法律ノ範圍内ニ於テ等ノ文字ヲ以テ例外法アルヲ示シ併セテ其例外法ヲ遵奉スベキヲ命セシ所以ナリ

以上述フル處ニ依テ見レハ社會ノ法律ナルモノハ民人ノ自由安寧ヲ保護スルヲ以テ原則トシ之レヲ抑制スルヲ以テ例外トナス故ニ其例外法ハ勉テ狹義ニ解スベク其禁セサルトハ自由ニ之ヲ爲ストヲ得ヘキハ自然ノ結果ニシテ吾人臣民タルモノモ亦法律ニ禁セサル所爲ハ自由ニ行フノ權ヲ有スルル當然ナリ

第拾八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

本條ハ日本臣民タルモノ、具備ス可キ要件ノ事ヲ定メタ

即チ其要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ルトアルハ是レ等ノ事タル民法典ノ人事編ニ規定ス可キハ各國ノ例規ナレハナリ而シテ其規定ニ從ヒ日本臣民タル要件ヲ具セシモノハ均シク我皇帝陛下ノ統治權ノ下ニ生息セサルヘカラサルハ論ヲ俟タサルナリ

第拾九條

日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均

シク文武官ニ任セラレ及其他公務ニ就クコトヲ得

本條ニ於テハ日本臣民タルモノハ文武ノ官職ニ就クニ同等ノ權利ヲ有スヘキ事ヲ規定セラレタリ
本條中「法律ニ定ムル所」トハ彼ノ文官試験規則公證人規則等ノ如キモノヲ云ヒ「資格」トハ其文武官タルニ於テ具有スヘキ要件ヲ云ヒ「均ク」トハ平等ノ意ニシテ彼是官職ニ就ク

ニ差等ナキヲ云ヒ「其他ノ公務」トハ官吏ノ稱號ナキ公證人及市長町村長等ノ職務ヲ指稱セシモノナリ

凡ソ官職ニ就クノ事タル國內ノ臣民皆平等ノ地位ニ立チ族籍ノ如何ヲ以テ其措置ヲ區別ス可カラサルモノナリ昔時封建ノ世ニ在リテハ文武ノ官職ハ專ラ武門ノ有ニ歸シタリシヲ以テソノ弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新ノ後チハ文武ノ官職皆人材ヲ登用スルヲ專トシ族籍ノ如何ニヨリテ其權利ヲ別異セサルコト、シ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスルノ道ヲ開キタリ然レニ封建藩閥ノ遺弊未ダ全ク蟬脫セサルノ今日ニ在テハ尙ホ或ハ平等ノ實ヲ擧クル能ハサルノ憾ナキ能ハス是レ本條ノ設定アル所以ナリ

第貳拾條

日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ

有ス

本條ニ於テハ日本臣民タルモノハ均シク兵役ニ服スルノ義務ヲ負フヘキコトヲ規定シタルモノニシテ條文中法律ノ定ムル所トハ徵兵令等ヲ指稱セシモノナリ
夫レ内國ノ安寧ヲ保護シ外寇ノ侵襲ヲ防遏セント欲セハ勢ヒ常備ノ軍兵ヲ置テ公敵ノ侵掠ヲ防禦セサルベカラス故ニ兵備ハ國家ノ威力ニシテ國權ヲ發揮スル所以ノモノナレハ今時ニ於テハ須臾クモ忽諸ニ付スヘカラス是レテ以テ方今ノ世ニ在テハ國民タル者國家ノ兵役ニ從事スルヲ以テ當然ノ義務トナスコト殆ント通則トナレリ而シテ止マ其國民軍ニ入ルテ以テ當然ノ義務ト爲スノミナラズ亦常備軍ニ入ルテモ亦タ必ス當然ノ義務トナス蓋シ兵士ノ

務ハ國家ニ奉スル所ノ務ニシテ貴重ノ義務ナレハナリ是レ本條ノ規定スル所以ナリ
然レトモ其常備軍ナルモノハ民ノ自由ヲ束縛シ商工業ノ隆盛ヲ妨碍シ富國ノ術ヲ害ス加之常備兵員甚タ多キトキハ之レニ由リテ已ムテ得ス厚ク收斂セサルヘカラサル等其弊勝テ算フ可カラス故ニ其一國ノ防禦ニ於テ已ムベカラサルモノヲ以テ之レカ限界トナシ又服役ノ年限ヲ短縮シ務メテ臣民ノ自由ヲ敬重セサルベカラス之レ爲政ノ一大要務ナリト謂フ可シ其常備軍ノ員數ハ國ノ位地及隣邦ト相關スル形狀ニ隨テ其多寡ヲ生ス可シ
兵士ヲ募集スル法獨リ徵兵ヲ以テ最モ宜キヲ得タリト爲ス可カラス募兵ノ法徵兵アリ志願兵アリ而シテ泰西諸國

各其軌ヲ一ニセス若シ國界ノ形勢土壤相接シ自ラ外寇ノ
侵撃ヲ受ケ易ク又ハ鄰邦ノ交誼既ニ破ブレ動モスレハ互
ニ相侵伐スルノ患アル國ニ於テハ徵兵ノ制ヲ用ヒ國民ヲ
舉ケテ兵役ニ服スルノ義務アリト爲ス是レ毎ニ互ニ罅隙
ニ乘セント欲スル者其勢ヒ己ムヲ得サルニ出ツ佛國ノ如
キハ即チ然リ而シテ大洋中ニ特立シ土壤ヲ他國ニ接セス
或ハ土壤相接スト雖モ國民ノ自由ヲ尊ヒ罅隙相乘スルヲ
以テ國是ト爲サハルノ國ニ於テハ多ク志願兵ノ制ヲ用ヒ
徵兵ノ主義ヲ採ラス英ノ如キ米ノ如キ即チ然リ是レ其國
情國勢彼是相異ルニ因ルナリ

我國昔時對建ノ世ニ在テハ兵役ニ服スルハ獨リ世襲ノ武
士ノミナリシト雖モ己ニ封建ヲ廢シテ武士ノ常職ヲ解キ

タル以上ハ則チ人民ノ舊習ヲ一洗シ以テ庶民ト雖モ從來
ノ武士ト共ニ守國ノ義務ヲ盡ス可キヲ命セサルヘカラ
ス是レ政府ノ夙ニ海外各國特ニ佛獨ノ制ニ倣ヒ徵兵ノ法
ヲ行フ所以ナリ即チ明治五年十一月詔シテ徵兵ノ令ヲ布
ク太政官告諭書ヲ發シテ曰ク我朝上古ノ制海内舉テ兵ナ
ラサルハナシ有事ノ日天子之レカ元帥トナリ丁壯兵役ニ
堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農ヲ
リ工ヲリ又商賣タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ
抗顔座食シ甚キニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサルモノ
、如キニ非ス抑モ神武天皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセ
シヨリ爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際
ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始メテ備ハル保元平治以後朝綱頽

弛兵權遂ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減少シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民ヲシテ漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ平農ヲ合一ニスルノ基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニ非ス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルベシトアリテ血稅ノ主義ニ基キ古昔ノ軍制ニ復シ兵權ヲ擧ケテ之レテ一二ノ種族ニ委セス分テ之レテ天下ノ民ニ付與セリト雖モ其實猶豫延期及免役等ノ例外法アリタレハ海内ヲ擧テ兵ナル精神ヲ貫カサ

リシモ今般改正セラレタル徵兵令(即チ明治廿二年一月廿一日公布法律第一號)ニ依テ觀レハ彌々其實ヲ擧ケタリ然レモ内已ニ逆亂ヲ謀ル者ナク外攻伐侵蝕ヲ以テ國是ト爲サス而シテ製産貿易ヲ以テ國ヲ立テ國ヲ守リ敢テ不正ヲ外國ニ加ヘサレハ則チ兵制ノ如キハ常時夥多ノ兵員ヲ備フルコトヲ要セス我兵員常時夥多ヲ要セサレハ則チ徵兵ノ制ヲ廢シテ志願兵ノ制ヲ採ルモ敢テ妨ケナカルベキナリ

第貳拾一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務

ヲ有ス

本條ニ於テハ日本臣民タルモノハ均シク租稅ヲ納ムル義務ヲ負フベキコトヲ規定シタルモノニシテ條文中「法律ニ定ル所ニ從」トハ地租所得稅酒造稅煙草稅菓子稅等ニ關ス

ル税法則ヲ指稱セシモノナリ
凡ソ一國ヲ經理スルニ於テ欠ク可カラサルモノハ費用ナ
リ警ヘハ諸般ノ政廳裁判所警察署ヲ設置スル費用ノ如キ
陸海軍ヲ準備スルノ費用ノ如キ公使領事ヲ派遣スルノ費
用ノ如シ此等費用ハ所謂政治上公ケノ費用ニシテ社會ヲ
結合スル所以ヨリ觀察セハ一國ノ人民其貧富ニ應シ其費
用ヲ分擔セサルベカラサルコト敢テ喋々ノ辨ヲ要セスサ
レハコソ古來一人ノ之ヲ非難スル者アルヲ見ス而シテ租
税ナルモノハ其政費ヲ償フカ爲メニ國內各種ノ物品事業
及ヒ土地等ニ課シテ各人民ヨリ徵集スルノ金額ニシテ其
種類ニアリ地方ノ用ニ供スルカ爲メニ一地方限リ徵收ス
ルヲ地方税ト云ヒ全國ニ課シテ全國ノ用ニ供スルヲ國税

ト稱ス國税ニ數多ノ税目アリ地方税ニモ又數多ノ税目ア
リ其性質ニハ直接税アリ間接税アリ比例税アリ特別税ア
リテ存ス又其之ヲ徵收スルニ或ハ分配ノ法ニ依ルアリ或
ハ分當ノ法ヲ用ユルアリテ畫一ナラス以上述フル所其當
否ハ皆直接ニ民人ノ休戚ニ關スルヲ以テ最モ慎戒ヲ加ヘ
サル可カラス而シテ何レノ國ニ於テモ出ル所少クシテ得
ル所多キヲ望ムハ人情ノ恒ニシテ古今ノ實事ニ徴シテ動
カスヘカラサルモノナレハ税ヲ納ル、薄クシテ厚ク保護
ヲ蒙ルハ天下ノ望ム所ナリ之レ古來官民ノ軋轢スル多ク
ハ之レカ爲メナリ我師アツペール氏曾テ云ヘルコトアリ
政府ニシテ租税ヲ取ルハ恰カモ齒醫又ハ外科醫ノ治療ヲ
施スト全一般ナリ例ヘハ齒痛ヲ病ムニ當テ治療ヲ乞フ時

醫ハ之レヲ抜キ去ル可シト云ヒ又手頭ニ疵創ヲ患フニ當
テ治療ヲ乞フ時其疵創ノ漸次全跡ニ及ハントスル時ハ醫
ハ之ヲ切截セント云ハ、其患者ハ齒ヲ抜キ手ヲ切テ其病
根ヲ絶ツハ喜ヘドモ其抜カル、コト、切ラル、コトニ至
ラハ決シテ喜フコトナシ租稅モ之レト同一ニシテ之ヲ用
ヒテ利ニ就キ害ヲ除キテ國家ヲ治療スルハ有用ニシテ欠
ク可カラサルモノナレハ此治療ヲ施シテ國家ヲ善良ニス
ルコトハ人民皆喜ヘトモ租稅ヲ取ラル、點ニ至テハ齒ヲ
抜キ手ヲ切ラルト一般決シテ喜ブコトナシト此比喻誠ニ民
人ノ心術ヲ穿テリト謂フ可シ蓋シ課稅ニシテ其當ヲ得ハ
民人敢テ其負擔ヲ憂ヘズト雖モ若シ苟モ之ヲシテ其當ヲ
得ス夥多ニ徵集スルニ至ラハ其結果遂ニ左ノ如キニ至ラ

ン

一 稅ヲ納ムル者ヲシテ其產業ノ成菓ヲ奪却セラルノ感ヲ
起サシメ各自拋棄心ヲ生シ生活ニ必要ナル働キヲ爲ス
ノミニシテ其餘ニ働クコトナク從テ一國ノ富饒ヲ來スノ
原因ヲ滅却スルニ至ル是レ歴史ニ徵シテ明々タルノミ
ナラス現ニ土耳其埃及ノ如キ地稅ノ甚々高キヨリ人民
ハ日々生活ニ必要ナル働キヲ爲スノミニシテ其餘ニ働
ラカサルノ結果ヲ來セリト云フ

一 租稅ノ重キ時ハ假令正直ノ人ト雖モ脫稅ヲ圖リテ敢テ
怪マサルニ至ルノミナラス重稅ノ爲メニ遂ニ國ノ道義
ヲ害シ風習ヲ猥スニ至ル

一 租稅重キ時ハ人民及ヒ財產移轉ノ結果ヲ來ス者ナリ則

チ必要ノ生活ヲ爲ス能ハサルヲ以テ假令愛國ノ衷情ハ勃々タルアルモ止ムヲ得ス他國ニ移住スルニ至ル又財產ニ付キ重キ稅ヲ取レハ人ハ移住セサルモ必ス財產ヲ移轉セシムルニ至ルナリ

右ハ唯弊害ノ一二ヲ序列セシモノナレトモ其他種々ノ害アルヲ免カレス

抑モ徵稅ハ爲政ノ最要ナルモノニシテ民人ノ自由ヲ重シ一國ノ富裕ヲ希フ者ハ常ニ課稅ノ政ヲ慎ミ直接ニ間接ニ之レヲ民人ニ謀リ其肯諾ヲ得ルニ非サレハ敢テ其稅ヲ賦課セサルナリ歐米各土概テ斯事ヲ重シ其憲法ニ載スルモノ一ニシテ足ラサルナリ我憲法モ亦本條ニ於テ日本臣民ハ納稅ノ義務アル事ヲ載セ第六十四條ニ國家ノ歲出

歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシトアリテ歲計ヲ議定スルノ權ヲ舉ケテ衆議院ニ歸シ其承諾ヲ經タルモノニアラサレハ賦課徵收ヲ許サル、トトセリ誠ニ用意ノ周密ナルモノト云フ可シ

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及住轉ノ

自由ヲ有ス

本條ハ日本臣民タルモノハ居住及ビ移轉ノ自由即チ所謂動行ノ自由ヲ保證セシモノナリ
動行ノ自由ハ往來去住唯我カ意ノ欲スル處ニ向フコトヲ得ルノ謂ヒナリ是又人生レナカラ有スル所ノ權利ニシテ生存活度ノ道ニ於テ最モ切ナルモノナリ蓋シ其隨意ニ至便ナル地ヲ求メ之レニ住來去住シテ其業ヲ營ミ其生ヲ樂

シムハ人生自然ノ情勢ニシテ敢テ抑制スヘカラサル者ナレハナリ
抑モ民人ノ自由ニハ種々アリト雖モ今動行ノ自由ハ是等諸種中重要ナル部分ニ屬ス而シテ此重要ナル自由ヲ承認スルトキハ國家モ亦大ニ得ル所アリ即チ業ヲ營ムニ便宜ナル所ニ住シ以テ其業ヲ執ル可ケンハ國家ノ經濟上其發達ヲ助クルコト疑ナケンハナリ然レトモ此自由モ亦他ノ自由ト同シク全ク制限ナキコト能ハサルナリ而シテ法治國ノ原則ヨリ其自由ヲ制限スル事政府ノ隨意ニ非ス必ス法律ニ依テ明定セサルヘカラス所謂居住及ヒ移轉ノ自由ノ制限ハ一ハ警察上ヨリ來リ一ハ町村ノ利益ヨリ來ルモノトス彼ノ昔時國土ノ隆盛ナルハ人口ノ夥多ナルニ基ス

トナシ動モスレハ民人移住ノ事ヲ禁シ或ハ外國移住ノ稅ヲ課スル等ノ非政ハ今日ニ於テ漸ク其跡ヲ收メタリ而シテ其警察上ヨリ來ル制限トハ罪人乞丐兒等ノ住居ノ制限ニシテ町村ノ利益ヨリ來ル制限トハ町村カ其町村ノ人民ヨリ出テタル血統ノ者ヲ除クノ外獨立シテ生活スルコトヲ得サルモノヲ拒絕スルノ權ヲ有スルニ在リ町村ハ新ニ其町村ニ入り來ラントスル者ニシテ自己又ハ自己ノ家族ノ爲メニ勞動セルノ力ナキ者又之レヲ養育スルノ力ナキ者ヲ拒絕スルノ權ヲ有セサル可カラス此權ノ町村ニ在ルハ則チ町村ニ救貧ノ義務アルト相對峙スヘキモノナリ之ヲ再言スレハ町村ニハ貧人ヲ救ハザルヘカラサルノ義務アリ既ニ此義務アル以上ハ必ス貧民ノ新ニ町村ニ入り來ラ

トトスル者ヲ拒絶スル權ナカルヘカラス
 以上ハ動行ノ自由ニ關スル理論ノ大要ヲ述ヘタレトモ我
 日本ノ制度ニ於テハ其第二ノ制限即チ町村ハ新ニ其町村
 ニ入り來ル者ヲ拒絶スルノ權ナシ是レ我國ニ於テハ救貧
 ノ義務ニ付テ法律上特ニ規定ナキカ爲メナラン

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審

問處罰ヲ受クルコトナシ

本條ハ人身ノ自由ヲ保證スルノ要目ニシテ吾人臣民ハ均
 シク法律ニ於テ規定スル場合ニ非ラサレハ決シテ逮捕監
 禁及ヒ審問所罰等ヲ受クルコトナキ云フ
 其所謂逮捕トハ治罪法ノ示スカ如ク現行犯準現行犯ノ場
 合又ハ現行犯ニアラズト雖トモ或ル場合(召喚狀ヲ受ケ其

時日ニ出廷セサル時被告人定リタル住所ナキ時罪證湮滅
 スルノ恐レアル時逃亡ノ恐レアル時未遂犯又ハ脅迫罪ヲ
 犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスルノ恐レアル時)ニ於テ被告人
 ノ身軀ヲ拘束シ公力ニ籍リテ強ヒテ之ヲ引致スルモノ
 チ云ヒ監禁トハ被告人ノ身軀自由ヲ拘束シ之ヲ獄舎ニ
 繋クモノヲ云ヒ審問トハ其事實ノ真相ヲ得ンカ爲メニ糾
 問スルコトヲ云ヒ所罰トハ被告人ニ對シ刑律ヲ適用スル
 コトヲ云フ

抑モ吾人臣民ノ法律ノ範圍内ニ於テ當ニ享受スヘキ自由
 ニシテ憲法上ニ於テ保證スヘキモノ固ヨリ一ニシテ足ラ
 ス其數頗ル多シト雖トモ未ダ嘗テ本身ノ自由ヲ保證スル
 ヨリ切ナルハナシ蓋シ本身ノ自由ニシテ其安全ヲ得ス他

人濫リニ之レニ干涉スルトキハ百般ノ愛苦ハ之レヲ避ケ
ント欲シテ避クル能ハス百般ノ歡樂ハ之レヲ享ケント欲
シテ享クル能ハサルナリ是レヲ以テ本身ノ自由ハ人生自
由ノ首要ニシテ其緊切ナルコト殆ント名狀スヘカラサル
ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

而シテ種々ノ自由中本身ノ自由ハ各國其政躰ノ原則ニ從
ヒ之レヲ保護スルニ最モ厚薄アリ自由國ニ於テハ其保護
深切叮嚀ナリト雖トモ專制國ニ於テハ其保護簡慢粗漏ナ
リ自由國ニ於テハ法官ノ職務權限嚴明ニシテ告狀ノ明白
ヲ要シ罪囚辨疏ノ豫備ヲ許シ陪審ノ設置辨讓ノ自由等其
本身ノ自由ヲ保護スルニ於テ盡サ、ル所ナシト雖トモ漢
土或ハ歐洲ノ君主專制國ノ如ク官吏種族ヲ爲シテ國ヲ私

シスルノ國ニ於テハ逮捕ノ權裁判ノ權限等總テ曖昧トシ
テ之レカ定限ナク上行ノ者ニ對シテハ奴隸ノ如ク下行ノ
者ニ對シテハ生殺與奪ノ權ヲ專ラニス斯ノ如キ國ニ於テ
ハ實ニ人身ノ自由ナルモノナク五尺ノ軀身殆ント復々吾
カ有ニアラサルカ如シ

顧ミテ我國武門政柄ヲ執ルノ舊時ヲ察セハ當時官家一片
ノ猜疑ニ觸ル、ヤ忽チ發シテ逮捕糺彈ト爲リ甚シキハ利
刀頸々アリ身首所ヲ異ニシ空シク枉冤ヲ蒙リ怨ヲ九泉ニ
飲ミ天地ヲ極メテ之レヲ雪クコト能ハサリシナリ顧フニ
當時吾人本身ノ危顛ナル實ニ疊卵モ管ナラス誰レカ之レ
ヲ顧ミテ中心竊ニ悚然タラサルモノアラシ哉明治三年庚
午十二月新律綱領ヲ天下ニ頒ツニ及ンテ吾人始メテ刑憲

ノ所在ヲ知ルヲ得法司ノ官モ亦之レニ據ツテ天下ノ刑獄ヲ斷シ隨テ民人ノ自由ヲ保固スルモノ甚タ多キヲ得タリ
 踵テ十三年七月刑法治罪法ヲ發布シ十五年一月ヲ以テ之
 レヲ實施ス此法ノ編纂ニ於ケルヤ泰西文明諸國ノ法典ヲ
 參照シ其英ヲ拔キ其華ヲ取リ就中佛國ノ法典ヲ基礎トナ
 シ集メテ以テ大成シ我國古來ノ弊習ヲ一洗シ民人ノ權利
 ヲ幾段ノ階級ニ進メ以テ之レヲ鞏クセリ本條ニ所謂法律
 トハ主トシテ此刑法治罪法ヲ云ヒシモノニシテ又彼ノ特
 別規則タル出版條例新聞條例稅關郵便鐵道銃獵漁業賣藥
 印稅酒造煙草等ノ諸罰則ヲ包稱スルモノナリ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受

クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

本條ハ日本臣民ハ均シク其司法上及行政上ニ於ケル裁判
 事件ニ關シ法律ニ定ムル裁判官ノ外其他ノ者即チ行政府
 カ臨時ニ設置スル裁判官ノ審判ヲ受クルコトナキヲ保證
 セシ法條ニシテ又吾人ノ權利ヲ保護スルニ至要ノモノナ
 リ
 何人ニ論ナク若シ自己ノ權利ヲ傷害セラレタリト思惟ス
 ルトキニ於テハ事ノ曲直ヲ斷スヘキ法術ニ訴テ以テ之レ
 カ回復ヲ圖ラサル可カス而シテ裁判官ノ之レヲ斷スルニ
 方リテハ偏ニ公明正大ノ心ヲ以テ其曲直邪正ヲ決セサル
 ヘカラス若シ裁判官ノ所分ニシテ公平ナラサレハ全ク其
 公平ヲ掌ル所ノ職務ヲ冒瀆スルモノト謂フヘシ而シテ其
 處分ノ公平ヲ得ント欲セハ勢ヒ常設ノ裁判官ヲシテ之レ

ニ任セサル可カラス更ニ之レヲ言ヘハ預シメ司法ノ制度ニ於テ確定セスシテ時ニ臨ミ特ニ設置スル所ノ裁判官ニ審理セシムヘカラス然ラサレハ時ニ或ハ正義公直ノ旨ニ戻ルノ裁判ナキヲ保セス果シテ然ラハ遂ニ吾人權利ノ安全ヲ追回復舊スル能ハサルニ至ラン是レ本條ノ規定アル所以ナリ故ニ本條ハ第五十八條ト共ニ詞訟上ニ於テ緊切歛クヘカラサルナリ

以上ノ如ク吾人ノ訟ヲ斷スルハ預シメ法律ニ於テ定メタル裁判官ノミニシテ之レヲ外ニシテハ國中ニ裁判權ヲ有スル者ナシトセサレハ將來或ハ其人ニ關シ或ハ其件ニ關シ臨時ニ文武ノ官吏ヲ擧ケテ之レカ裁決ヲ爲サシムルニ至ランモ亦之レナキヲ保ス可カラス夫ノ國權ノ分立セス

又ハ假令分立スルモ行政權強盛ニシテ司法權ノ獨立ナキ國ニ於テハ犯罪ノ性質ニ依リ又ハ犯人ノ如何ニ依リ動モスレハ臨時ニ裁判所ヲ開キ或ハ特別ノ裁判官ヲ命ジテ其罪ヲ斷セシムルコトアリ其便宜ヲ得テ或ハ寬典ニ所セラレ、ノ仁慈ナキニアラサルモ斯ノ如キハ一步ヲ過テハ國民ノ權利ヲ枉クルニ至ルモノナレハ如何ナル場合ニ於テモ之レヲ許シテ行政權ヲシテ司法權ヲ侵サシムルノ門ヲ開クヘカラス此制定ヲ缺カハ司法權ノ獨立モ大ニ微弱スル所アルヘシ注意セサルヘカラス

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

本條モ亦臣民權利ノ一タル家宅不侵ノ原則ヲ定メタルモ

ノニシテ臣民ハ其許諾ナクシテ法定範圍外ノ侵入ヲ受ク
ルコトナシ況ンヤ其搜索ニ於テオヤ
凡吾人ノ家宅ハ猶ホ城郭ノコトク人ノ得テ侵ス可カラサ
ルハ蓋シ吾人權利ノ大則ナリ故ニ吾人ハ其承諾ヲ與フル
コアラサルヨリハ何人ト雖トモ強テ門戸ヲ開キ又強テ其
家人ヲ引致シ又強テ其財物ヲ拿去スヘカラス此原則タル
文明諸國ノ最モ重ニスル所ニシテ吾人生存ノ途ニ於テ須
臾モ缺クヘカラサルモノナリ是レヲ以テ我刑法モ第七
十一條以下ニ於テ故ナク之レヲ侵スモノヲ處分スルノ規
定アリ

以上述フルカ如ク家宅不侵ハ吾人權利ノ一ナリト雖トモ
法律ニ定メタル事件ニ付法律ニ定メタル程式ヲ履ミタル

トキハ其戸主ノ意ニ戻リテ其家宅ニ侵入スルヲ得ヘキ例
外ノ存スルアリ是レ本條ノ「法律ノ定メタル場合ヲ除ク」ノ
文字アル所以ニシテ其法律トハ治罪法ヲ指稱セルモノナ
リ

法律上ヨリ論セハ家宅搜索ニハ二種ノ別アリ曰ク一般ノ
家宅搜索曰ク特別ノ家宅搜索是レナリ一般ノ家宅搜索ト
ハ事實發見ノ爲メ必要ナル物件ヲ得ンカ爲メ又ハ被告人
ヲ逮捕センカ爲一市一村一邑ノ人家ヲ悉ク搜索スルヲ謂
ヒ特別ノ家宅搜索トハ特ニ被告人ノ住所若シクハ事實發
見ノ爲メ必要ナル物件ヲ藏匿スルノ疑アルカ又ハ被告人
ノ潜匿シタリト思料セシ者ノ家宅ニ侵入シ之レヲ搜索ス
ルヲ謂フ

右一般家宅搜索ハ或ハ事實發見ノ爲メ又ハ被告人ヲ逮捕スル爲メ必要ナルコトアリト雖トモ家宅不侵ノ原則ヲ減殺スルコト足ル可キ充分ナル理由アルニ非サレハ近世諸國ニ於テ多ク之レヲ許サス我邦ニ於ケルモ亦然リ

夫レ家宅不侵ノ原則ニ反シテ此法律ノ存スル所以ハ蓋シ此原則ニ拘泥シ法律上ノ權力ヲ以テスルモ仍ホ人家ニ侵入搜索ヲ爲ス能ハサルモノトセバ之レカ爲メニ公益ヲ害スルコト實ニ少々ニアラサレハナリ熟ラ歐洲各國ノ憲法ヲ案スルニ先ツ家宅不侵ノ原則ヲ掲ケ而ル後チ之レカ例外ヲ設ケ法律ニ定メタル事件ニ付キ法律ニ定メタル程式ニ依ルトキハ戶主ノ意ニ戻リテ人家ニ侵入及搜索ヲ爲スヲ得ルトセリ本條ノ規定アルモ蓋シ之ニ倣ヒシモノナリ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

本條モ亦吾人ノ秘密ヲ發クモノナレハ前條ト俱ニ保證セサル可カラサル權利ノ一ナリ

夫レ信書ハ言語ノ形跡ナリ秘密ノ言語ハ人之レヲ發ク能ハス之レヲ發キタルモノハ刑法(第三百六十條)ノ制裁アリ然ラハ則チ書類ノ秘密モ亦人之レヲ發ク能ハサルナリ彼ノ郵便電信ノ官署又ハ諸會社ニ信書ノ委托ヲ爲セシモノハ假令其旨ヲ明言セサルモ則チ其秘密ヲ委托シタルモノナリ故ニ何人ニ限ラス決シテ之レヲ侵ス能ハス此原則タル彼ノ醫師、藥商、穩婆、代言人、辨護人、代書人等其身分職業ニ於テ委托ヲ受ケタル事ニ因リ知り得タル陰私ノ漏告ヲ許

サル、旨趣ト其理由ヲ同シクス
彼ノ有名ナル「セーソ」氏曰ク緘書ハ猶ホ所有權ノ如シ事
ノ公益ニアラサルヨリハ貴重ナル書翰ノ秘密ヲ發カント
欲スルモ決シテ得ヘカラサルナリト宜ナル哉本條ニ於テ
此貴重ナル信書ノ秘密不可侵ノ權利ヲ保護シ事ノ公益ニ
屬セサルニ於テ之レヲ開披シ其秘密ヲ摘發セラル、コト
ナシ而シテ其公益ニ屬スル場合トハ治罪法第百六十九條
ノ場合ニシテ則チ事實發見ノ爲メ必要ナルトキハ豫審判
事ハ之レヲ差押ヘ開披スルノ權利ヲ有セリ是レ公益ヲ保護
センカ爲メ已ムヲ得サルモノニシテ畢竟社會公益ノ爲メ
ニハ吾人ノ私益ハ數歩ヲ讓ラサルヲ得サルヲ以テナリ本
條法律ニ定メタル場合トハ之レヲ云フナリ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

本條ハ吾人財産所有ノ權利ヲ保證スルノ法條ニシテ其所
有ノ土地家屋家財其餘凡百ノ財産ハ公益ノ爲メ必要ナル
場合ニアラサルヨリハ之レヲ沒收シ之レヲ侵奪シテ其所
有權ヲ擾亂セラル、コトナキヲ謂フナリ故ニ吾人ハ此條
ニ依リ其私有タルト共有タルトニ論ナク所有權ノ確乎タ
ル保護ヲ得タルモノニシテ亦之レヲ確乎タラシムルハ政
治上已ムヘカラサル緊要ノ事ト謂フヘシ
夫レ吾人ノ能ク獨立シテ其生命ヲ保チ其自由ヲ全フスル
ヲ得ルハ一ニ我カ資産ノアルアリテ我ヲ幫助スルニ據ル
モノナリ之レヲ以テ憲法上吾人ノ財産ヲ保證シ自在ニ之

レカ收得保有ヲ得セシムルハ吾人生存ノ道ニ於テ最モ要
ニシテ最モ切ナルモノナリ蓋シ吾人ノ勉勵希望ハ悉ク舉
テ所有權ヲ以テ其目的ト爲スモノナレハナリ
然リト雖トモ此所有權ナルモノハ整頓シタル社會ニ非ラ
ザレハ之レカ保護ヲ與ヘサルヲ通習トナスヲ以テ斯ノ如
キ社會ニ於テハ假令之レヲ有スルモ所有者ニ於テハ其益
スル處尠ナカルヘシ何トナレハ不完全ノ社會ニ在テハ民
事上其所有權ノ確保ナキヲ以テ絶ヘス騷擾ヲ免カル、コ
ト能ハス從ツテ其所有者ヲシテ其產業勞力ノ成菓ヲ奪取
セラル、ノ感ヲ起サシムルニ至レハナリ
故ニ古昔未開ノ社會ニ在テハ所有權ハ實ニ薄弱ナルモノ
ニシテ國主又ハ政府ハ何時ト雖トモ之レヲ沒收スルコト

ヲ得タリ然レトモ近世ノ法律ニ於テ各國皆テ所有權不可
侵ノ原則ヲ認メサルモノナシ此原則タル實ニ民人ノ所有
權ヲ確認シタルモノニシテ私人ノ財產ハ之レヲ沒收シ又
ハ妨礙スヘカラサルノ謂ナリ故ニ政府若シクハ一社會一
般ノ力ヲ以テスルモ又如何ナル場合ト雖トモ所有權ハ尊
重ヲ加フヘク得テ之レヲ侵奪スヘカラサルナリ然リト雖
トモ此原則ハ到底例外ナキ能ハス如何トナレハ絶對的ニ
此原則ヲ適用スルトキハ或ハ爲メニ社會公共ノ利益ヲ妨
ケ若クハ社會ニ危害ヲ加フルノ恐レナキ能ハサレハナリ
故ニ社會公共ノ利益ヲ維持シ又ハ増進スル場合若クハ將
來ノ危害ヲ防止セントスル場合ニ於テハ之レヲ收奪シ之
レヲ制限スルコトヲ得ヘキモノトセリ是レ本條第二項ニ

於テ之レカ例外ヲ示シ公益ノ爲メ必要ナル所分ハ法律ノ定ムル所ニ依ルト規定セシ所以ナリ今其例外ノ一二ヲ例示セハ公用ノ爲ニ財産ヲ供出セシムルカ如キ又ハ刑事上ノ沒收ノ如キナリ

公用ノタメニ財産ヲ供出セシムルトハ例ヘハ砲臺ヲ築キ鐵道ヲ敷キ河渠ヲ通シ道路ヲ開ク等其事ノ社會公共ノ利益ノ爲メニ必要ナルトキ民人ノ所有權ト雖トモ強制ヲ以テ之レヲ供出セシムルモノヲ云フ公用ノ爲メニ一私人ノ財産ヲ供出セシムルハ事ノ甚タ已ムヲ得サルモノニシテ勢ノ避ク可カラサルモノナリ蓋シ吾人人類ハ此社會ニ在テ互ニ相補助スヘキモノニ過キサレハ社會ハ各個人ノ利益ヲ保護シ又各個人ハ之レニ報ヒテ公益ノ爲メニ必要ナ

ル義務ヲ己レニ引キ受ケザルヘカラサレハナリ故ニ所有權ト雖トモ彼ノ自由ノ權ノ如クニ社會ノ公益ニ對スルトキハ必ス屈セサルヲ得サルモノタルハ明カナリ以上ノ如ク社會ハ公共ノ利益ノ爲メニ其民人所有ノ權ヲ割クノ權利ヲ有スト雖トモ是レ唯強ヒテ供出セシムルノ權利アルノミ敢テ奪取スルノ權ヲ有セス故ニ之ヲ供用セシムルニ當テハ宜シク相當ノ代品ヲ與ヘ若シクハ至當ノ價金ヲ償ヒ(夫ノ地券面ノ代價ノ如キハ至當ノ價ニアラス)以テ之レヲ交換セサルヘカラス然ラサレハ特ニ專ラ一人ヲ損害シテ社會ノ公益ヲ謀ルハ畢竟正理ニ反スルノ所置タレハナリ蓋シ公共ノ事ハ一私事ニ比スレハ固ヨリ重シ然リト雖トモ其重キカ故ニ一私人ノ財産所有ノ權利ヲ蔑

ニスルニ至リテハ抑モ是レ非政ナリ世ノ論者動モスレハ
公益ノ重キヲ稱シ一私人ノ財産ヲ擧ケテ其犠牲ト爲スヲ
顧ミサルモノアリ是レ實ニ誤謬ノ甚シキモノニシテ假令
公同有益ノ事ニ供スルモ其財産ハ是レ私人各自ノ所有ナ
リ社會公同ノ名ヲ以テ強ヒテ之レヲ奪フノ理アラサルナ
リ
公共ノ爲メニ所有者ヲシテ所有權ヲ割カシムルノ義務ヲ
負ハシムルハ民人ノ權利ニ非常ノ暴害ヲ加フルモノナレ
ハ輕々ニ行フヘキコニアラス是レヲ以テ歐米自由ヲ貴フ
ノ國ニ於テハ此所分ヲ爲スニ方リテハ國會ノ議決又ハ敕
令ヲ以テ某事業ハ社會公共ノ事業ナリト證明シタル上ニ
アラサレハ此事業ノ爲メニ民人ノ所有權ヲ買上クルヲ得

サルモノトセリ又其償額ヲ定ムルニ於テモ鄭重ヲ旨トシ
可成示談ノ法ニ依リ示談整ハサルトキハ官署ヨリモ委員
ヲ出シ又所有者ヨリモ委員ヲ出シ此兩員ヲ以テ相當ノ代
價ヲ評定セシムルノ法ヲ用ヒ其手續誠ニ深切ナリ
我國從來公用地買上規則ナルモノアリト雖トモ此規則
タル未タ以テ民人所有權ノ保護ニ於テ盡セリト謂ヒ難シ
余輩ハ將來ノ立法者タルモノニ對シ一ノ希望スヘキアリ
則チ前述ノ程式ヲ採用シ一層民人ノ所有權ヲ確保セラレ
ンコト即チ是ナリ
以上陳辨スルモノ、外尙ホ民人ノ所有權ヲ侵スヘキ場合
ハ即チ刑事ノ沒收所分ニシテ刑法第四十三條ノ規定スル
モノナリ

往時未開ノ時ニ在テハ一般ノ沒收ナルモノ行ハレタリ一般ノ沒收ニハ犯人ノ家産ヲ悉皆沒收スルモノニシテ我國ニ於テモ亦舊幕府ノ時迄各藩概テ之レヲ行ヒタリシカ其刑ノ不正ニシテ刑ノ本質ニ背クコトヲ覺知セシヨリ近時一般沒收ノ刑ハ其跡ヲ開明社會ニ絶ツニ至レリ蓋シ此刑タル犯者ノ一身ニ止マラスシテ其害無辜ノ一家眷族ニ及ヒ空シク其父母妻子ヲシテ路傍ニ彷徨セシムルニ至ル是レ素ト刑ハ其人ニ止マルノ法理ニ背クモノニシテ文明諸國ノ刑ト爲スニ足ラサレハナリ然レトモ特別沒收ト稱シ犯罪ヨリ生シタル物件或ハ一人ノ占有又ハ其存在ノミニシテ既ニ公ケノ秩序ニ危害アル物件ニ沒收ヲ適用スルハ嘗テ異議ヲ容ル、者ナク何レノ國ニ於テモ今仍ホ之レ

ヲ行ヒ我國ニ於テモ亦此刑ヲ採用セリ故ニ此場合ニ於テモ亦所有權ヲ收奪セラル、コトアルヘシ其他尙ホ行政上ノ規則ヲ以テ之レカ制限ヲ附スルコト屢ナリ之レヲ要スルニ所有權不可侵ハ一般ノ原則ナレトモ社會ノ公益若シクハ秩序ヲ維持スルニ於テ相抵觸シタルトキハ法律ヲ以テ之レヲ收奪シ又ハ之ヲ制限スルヲ得ヘキモノトス

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

本條ハ吾人ノ其歸依スル所ノ宗教ヲ信仰スルヲ得ルノ自由ヲ保證セシ法文ニシテ亦其確保セサルヘカラサル權利

ノ一ナリ

凡ソ吾人宗教ヲ信スルノ心ハ總テ其精神心意ニ係レル諸件ト同一理ニシテ全ク人世ノ法ニ關セス則チ國權ノ管理ニ屬セサルモノナリ蓋シ國權ハ其權力ヲ人ノ心思意思上ニ施行スヘキモノニアラス唯形而下即チ心思意思ノ外形ニ顯ハレ行爲ニ發セシ所ヲ管スルモノタルニ過キス故ニ宗教上ニ於テハ政府之レニ干涉ス可カラス設令之レニ干涉スルモ心ハ無形ナリ吾人素ヨリ之レカ主タリ政府遂ニ之レヲ奪フヘカラサルナリ是故ニ宗教ヲ信スルノ自由ハ決シテ近今法學ノ開明ニ由テ始メテ生シタルニアラス元來決シテ人區法律ノ束縛ヲ受クヘキモノニアラサレハナリ然リト雖トモ若シ其信教心ヲ外形ニ發表スルトキハ必

ス國家ノ法律ヲ以テ或ハ之レヲ保護シ或ハ之レヲ制限セザルヘカラス此事ノ自由ハ元來無限ナレトモ亦法制ノ爲メニ保護限制セラル、ニ至リテ遂ニ法制ノ區域ニ屬スルモノトナルナリ

如此信教心ノ外形ニ表シ言辭ニ發スルニ於テハ其教義國ノ安寧秩序ニ害アルカ又ハ臣民タルノ義務ニ背クモノヲ除クノ外國家ハ宜シク意ヲ用ヒテ人々自ラ是トスル教派ヲ奉スル自由權ノ妨害トナルモノヲ悉皆驅除セサルヘカラス其ノ方法他ナシ一國ノ憲法ニ於テ之レカ保證ヲ爲スニアリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

我國昔時耶蘇ノ教義ニ信依スルノ自由ヲ奪却シ之レヲ信スルモノハ忽チ刑律ノ問フ所トナリ其罪ヲ蒙ムルモノア

リシト雖トモ維新後暗々裏ニ其禁制ヲ解キ今日ニ在ツテハ各自ノ所信ニ任シ敢テ之レヲ防制セス是ヲ以テ或ハ天主敎ニ入リ或ハ新敎ニ歸スルモノ頗ル多ク公然タル演説場ヲ設ケ禮拜堂ヲ建築シ益其敎義ヲ傳播スルノ方策ヲ講シ復曾テ政令ノ束縛禁戒ヲ受ケサルナリ又維新ノ際敬神廢佛ノ說朝野ニ行ハシ勢ヒ殆ント神道ヲ定メテ國敎ト爲シ他ノ宗旨ヲ排シテ威ク之レニ換ヘント欲スルモノ、如ク民人信仰ノ自由既ニ危殆ノ地位ニ迫レリ然ルニ政府又見ル所アリ之レヲ將ニ失却シ去ラントスルノ際ニ救ヒ終ニ今日ニ至ルヲ得セシメタリ是レ實ニ信敎ノ自由ニ於ケル關係ニ於テ頗ル著大ノ事タルナリ何トナレハ國ニ國敎ナルモノヲ定置シ甲宗ニハ特別ノ保護ヲ

與ヘ乙宗ニハ之レヲ奪フノ制ヲ設クルハ一時ノ政略ニ利アリト雖トモ其人身ノ自由ニ害アル蓋シ之レニ過クルモノナシ加之此事タル一國政治上ニ於テ其災害ヲ招クニ至レハナリ要スルニ某々ノ宗敎ヲ定メテ國敎トナシ民人ヲシテ威ク之レヲ信仰セシメント欲セハ勢ヒ一二ノ方術ヲ用ヒテ之レヲ誘引又ハ強迫セサルヲ得サルニ至リ遂ニ夫ノ中古基督敎漸ク蔓延セシ時之レヲ傳播スルニ當リ其服從セサル者ニ對シ直チニ兵ヲ用ヒ火ヲ放チ以テ之レニ逼リ強ヒテ其敎義ニ從ハシメシカ如ク其方法暴戾慘刻ヲ極ムルニ至ルナキヲ保セス豈恐レサル可ンヤ此レ此憲法ニ於テ國敎ヲ定置セス各宗同一ノ保護ヲ與ヘタル所以ナリ

歐洲諸國ニ於テハ或ハ其國教ナルモノヲ定メ特例ヲ國教ニ與フルノ國アリト雖トモ其國教アルモノハ之レヲ求ムルニ非スシテ勢ノ不得已ニ成ルモノナリ英國ノ制ニ於テハ新教ヲ以テ其國教ト定メ之レヲ奉崇スルモノニアラザレハ某々ノ官職ニ就クノ權ナキヲ言明セリト雖トモ近世ニ及ンテ漸ク其弊制ヲ自悟シ今復々奉教ノ如何ヲ問テ其權利ヲ左右スルノ惡政ヲ見ス

然リ而シテ泰西諸國ハ勿論東洋諸國ニ於テモ亦其信教ノ如何ニ依テ其身ヲ殺サレ其國ヲ退ハレ父子離散シ兄弟索居スルモノ頗ル多ク且其信仰ヲ異ニスルノ故ヲ以テ各種ノ權利ヲ褫奪セラレ其榮譽ヲ全フセサルモノ甚々多シ是レ皆人生活度ノ大道ニ背キ非理惡政ノ甚シキモノナリ故

ニ宗教ナルモノハ到底其民人ノ信仰奉崇スルヲ自由ナラシメ各自ノ所信ニ任シテ政治上敢テ之レニ干涉セサルヲ以テ古今政務ノ一大要點ナリト謂フヘシ而シテ其教義宗制ノ國ノ安寧秩序ヲ妨ケ又ハ臣民タルノ義務ニ背クカ如キニ至リテハ國家之レヲ信奉スルヲ許サ、ルハ敢テ言ヲ待タス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

本條モ亦吾人緊切ナル自由權ノ一ニシテ法律上ノ範圍内ニ於テ政治上、宗教上、學術上、工藝上、商業上、農事上等ニ付キ各其欲スル所ニ從ヒ言論シ著作シ印行シ集會シ結社スルノ自由ヲ有スヘキコトヲ保證シタルモノナリ其法律ノ範

レアリ故ニ其言論印行ニシテ國ノ治安ヲ妨害シ風教ヲ汚
害スルモノハ宜シク之ヲ禁止シ其害ヲ豫防セサルヘカラ
ス又其集會ニシテ平穩靜肅ヲ失シ騷擾ノ舉動アルモノハ
宜シク行政權ノ威力ヲ以テ直チニ其集會結社ヲ解散セラ
ル、モ不當ノ事ニアラス故ニ吾人ハ其所爲ニ付キ法律ニ
於テ制限セサル區域内ニ在テ自由ヲ有スヘキナリ是レ本
條ニ例外法アルヲ明言シ臣民ハ其法律ニ從フヘキコト
ヲ命セシ所以ナリ而レトモ特別ノ法律ヲ以テ以上ノ自由
ヲ檢束スルモ是レ其目的ハ此自由ヲ牽掣センカ爲メニア
ラスシテ國家ノ安寧風儀ヲ維持センカ爲メタルニ過キサ
レハ此目的ヲ誤リ決シテ特別法ニ依リ全ク民人ノ自由ヲ
奪却シ其餘地ナキニ至ラシムヘカラス若シ立法者ニシテ

斯民人自由ノ權利ヲ褫奪シ了スルニ至リテハ實ニ憲法ノ
精神ヲ誤ルノ甚シキモノト謂フヘシ

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規 程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

本條ハ請願ノ權ヲ認メタルモノニシテ此請願ノ權利モ亦
人生至要ノ權利ナリ
抑モ上下隔絶官民乖離ハ實ニ國家ノ不幸ナリ而シテ其原
因スル所ハ上情下達セス下情上達セサルニヨル今ヤ帝國
議會ノ開設將サニ近キニアリ臣民モ亦國政ニ參與スルヲ
得ルヲ以テ上下壅塞官民互ニ猜疑スルカ如キ憂ハ蓋シ存
セサルヘシト雖モ未タ之ヲ以テ遮カニ安ス可カラサルモ
ノハ各國憲法此自由ヲ確認セサルモノナキヲ見ルモ明カ

レアリ故ニ其言論印行ニシテ國ノ治安ヲ妨害シ風教ヲ汚害スルモノハ宜シク之ヲ禁止シ其害ヲ豫防セサルヘカラス又其集會ニシテ平穩靜肅ヲ失シ騷擾ノ舉動アルモノハ宜シク行政權ノ威カヲ以テ直チニ其集會結社ヲ解散セラレハモ不當ノ事ニアラス故ニ吾人ハ其所爲ニ付キ法律ニ於テ制限セサル區域内ニ在テ自由ヲ有スヘキナリ是レ本條ニ例外法アルコトヲ明言シ臣民ハ其法律ニ從フヘキコトヲ命セシ所以ナリ而レトモ特別ノ法律ヲ以テ以上ノ自由ヲ檢束スルモ是レ其目的ハ此自由ヲ牽掣センカ爲メニアラスシテ國家ノ安寧風儀ヲ維持センカ爲メタルニ過キサレハ此目的ヲ誤リ決シテ特別法ニ依リ全ク民人ノ自由ヲ奪却シ其餘地ナキニ至ラシムヘカラス若シ立法者ニシテ

斯民人自由ノ權利ヲ褫奪シ了スルニ至リテハ實ニ憲法ノ精神ヲ誤ルノ甚シキモノト謂フヘシ

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

本條ハ請願ノ權ヲ認メタルモノニシテ此請願ノ權利モ亦人生至要ノ權利ナリ

抑モ上下隔絶官民乖離ハ實ニ國家ノ不幸ナリ而シテ其原因スル所ハ上情下達セス下情上達セサルニヨル今ヤ帝國議會ノ開設將サニ近キニアリ臣民モ亦國政ニ參與スルヲ得ルヲ以テ上下壅塞官民互ニ猜疑スルカ如キ憂ハ蓋シ存セサルヘシト雖モ未タ之ヲ以テ遽カニ安ス可カラサルモノハ各國憲法此自由ヲ確認セサルモノナキヲ見ルモ明カ

ナリ然レハ此自由ヲ得テ其反正ヲ求ムルハマタ人生ノ止ムヲ得サルモノト云フヘシ然ルニ此請願ノ自由ハ往々抑制ヲ免カレサルヲ以テ特ニ本條ニ明示シ之レヲ確保シタル所以ナリ

請願トハ自己ノ權利ヲ害セラレタルニアラスシテ利益ヲ減殺セラレタル時又ハ自己ノ利害ニ關係ナキモ一般公衆ノ利益ノ爲メ帝室政府又ハ議院ニ對シ其惠ニヨランコトヲ愁訴歎願スルヲ云フ既ニ權利ヲ害セラレタルニ非サルヲ以テ之ヲ容ル、ト否トハ當局者ノ權ニアリ故ニ彼ノ數人黨ヲ爲シ強ヒテ其目的ヲ達セント欲スルカ如キハ請願ニ非ス是レ相當ノ敬禮ヲ以テ之ヲ行ハサル可ラサル所以ニシテ別ニ定ムル所ノ規定トハ例ヘハ請願條例及ヒ議院法

第十三章ニ掲クル規定ノ類ニシテ又彼ノ建白モ此請願中ニ包含スルモノト知ルヘシ

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰事又ハ國家事變ノ場

合ニ於テ天皇ノ大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

本條ハ國家危急ノ場合ニ際シテ此章ノ規定ハ天皇陛下カ其危急ヲ濟ハセ給フ爲メ統治權ヲ行ハセラル、妨害トナルヘキモノニアラスト定メタルモノニシテ實ニ緊要ノ法條ナリ

臣民各種ノ權利及ヒ自由ノ確保ヒサルヘカラサルコトハ本章各條ニ於テ業既ニ縷述シタリ

臣民ノ權利侵スヘカラス臣民ノ自由奪フヘカラス夫レ然リ然リト雖トモ時ニ國家不虞ノ變ナキヲ保スヘカラス又

焉ソソ絶ヘテ非常ノ災ナキヲ保ヒン既ニ不虞ノ變ニ際シ非常ノ災ニ會ス亦之ニ應スル宜シク非常ノ英斷ヲ以テセサルヘカラス徒ラニ常法ヲ株守シテ應變ノ策ニ出テザルハ誠ニ迂遠ノ甚タシキモノト云フヘシ臣民ノ權利實ニ確保セサルヘカラス臣民ノ自由實ニ侵奪スヘカラス然リト雖モ這ハ平時ノミ常法ノミ國家非常ノ事變ニ遭遇スルアラソカ臣民ノ權利侵サ、ルヘカラス臣民ノ自由奪ハサルヘカラス若シ然ラスシテ猶此常法ヲ株守セサルヘカラストセソカ國家ノ危急ヲ如何セソ是レ實ニ本條規定ノ止ムヘカラサル所以ナリ歐洲大陸各國ニ於テ守城或ハ大騒亂ノ時ニ方リ將軍暫ク常律ヲ廢シ嚴密ノ處置ヲ爲シ得ルノ法アルモ蓋シ之レカ爲メナリ

凡ソ國ノ君主國タルト民主國タルトニ論ナク己ムヲ得サル事變ノ生セサルノ理決シテアルヘカラス然ルニ其國憲上全ク此大權ヲ設ケサルモアリ或ハ之ヲ設クルモ甚タ其詳細ヲ得サル國アリ甚タシキニ至テハ此權ノ遂ニ專横ニ至ランコトヲ恐レ故ラニ之ヲ禁スルモアリ若シ此等ノ國ニ於テ一旦爭亂事變ノ生スルアルニ遇ヘハ之ヲ救済スルノ術果シテ如何是レ徒ラニ權利自由ニ眩惑シテ變通ヲ知ラサルモノト云ハサルヲ得ス

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律

ニ抵觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

本條ハ本章ニ掲クル條規ハ或ル場合ヲ除クノ外軍人ニモ適用スルモノタルコトヲ示シタルモノナリ

卒土ノ濱、王土ニアラサルハナク、普天ノ下、王民ニアラサルハナシ去レハ、憲法ヲ以テ臣民ヲ保護スルニ於テ彼ニ厚ク是ニ薄キカ如キ偏頗ノアルアリテ可ナランヤ、是ヲ以テ其職ノ農タルト商タルトヲ論セス、其官ノ文タルト武タルトヲ問ハス、苟モ日本帝國ノ臣民タルモノハ悉ク同一ノ保護ヲ與ヘサルヘカラス、然リト雖モ、軍事ニ關スル事ハ殊ニ紀律ノ必要ナルト、陸海軍ノ兵卒ノ制馭シ難キヨリ至大ナル危険ノ生スルコトアルヲ以テ、寛裕ナル常法ノ能ク支配スヘキニアラサルナリ、是レ特ニ法典ヲ設ケ將校兵士ヲ檢束警戒スル所以ナリ、故ニ陸海軍ノ法典ニシテ本章ニ掲クル條規ニ牴觸スルモノアルトキハ將校兵士タル者ハ必ス其法典ニ從ハサルヘカラス、反之彼是相牴觸スル所ナキニ於

テハ假令特別法ノ支配ヲ受クヘキ軍人ト雖モ本章條規ノ保護ヲ受ケ又其義務ヲ免カルヘカラスナルナリ、是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第三章 帝國議會

此章ハ國會ノ組織法ヲ定メタルモノニシテ、今其組織法ノ如何ノヲ研究スルニ先チ政權分離ノ必要ヲ一言セサル可カラス

彼ノ有名ナル「モンデスキュー」氏ハ政權ヲ分ツテ立法行政司法ノ三大權トナシ三權鼎立ト稱シテ此說一時盛ニ行ハレシカ、近時ノ學者ハ之ヲ採用セス、司法權ハ行政權ノ一部ニシテ政權ハ立法ト行政ノ二大權ニ外ナラスト、此區別ハ自然ノモノナリ、何トナレハ法ヲ立ツルト法ヲ行

フトハ全ク別種ノモノナレハナリ故ニ立法權ヲ實行スル
モノト行政權ヲ實行スルモノトハ其人ヲ異ニスルヲ要ス
若シ同一ノ人ヲ以テ同時ニ此二權ヲ實行セシムルトキハ
事務ノ混雜ヲ來シ種々ノ不都合ヲ生シ殊ニ壓制ノ弊害ヲ
生シ易シ古來君主獨裁國ノ往々壓制ニ涉ルモノハ職トシ
テ此二權ヲ一人ニテ實行スルニ由ル是レ即チ我國ニ於テ
立法ノ事務ハ帝國議會ニ委テ行政ノ事務ハ內閣ニ托セラ
レ天皇陛下其上ニ在シテ總攬アラセラル、所以ナリ
諸立法行政二權ノ別ル、理由既ニ明了ナレハ是ヨリ條文
ニ入り立法府タル國會ノ組織ニ付キ研究セシ

第三拾三條、帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

本條ハ立法府タル帝國議會ノ組織法ヲ定メタルモノニシ

テ帝國議會ハ貴族院ト衆議院トヲ以テ組織ス所謂二院制
度トハ即チ是レナリ

此制度ノ得失ニ付テハ種々議論モアリ又佛國ニ於テハ屢
政跡ノ變革アリシヨリ或ハ一局議院ノ法ヲ取り或ハ二局
議院ノ制ヲ行ヒシモ要スルニ今日歐米諸國共ニ概チ二院
ノ制度ヲ採用セリ今皮相ノ考ヲ以テスレハ國會ハ一院ニ
テ足ルヘク且二院ヲ置クハ徒ラニ重複スルノミナラス二
院ノ間ニ軋轢ヲ生シ却テ國家ノ治安ニ害アルカ如シト雖
モ其害ハ之ヲ一局議院ノ專横ニ涉リ終ニ不測ノ大害ヲ生
スルノ比ニ非ラス今左ニ其理由ヲ簡端ニ述ベシ
一、双眼ノ見ル處ハ四目ノ誤認ナキニ及ハス一面ヨリ見ル
ハ兩面ヨリスルノ精シキニ如カス、サレハ兩院互ニ其地

位ヲ異ニシテ反覆審議スルハ實ニ國家ノ長策ナリ

二、原來立法官ハ國家永久ノ利害ヲ目的トシ一時ノ出來事ニ應シテ幹旋スルモノニ非ス一時ノ出來事ニ應シテ臨機ノ處置ヲナスハ行政ノ職務ナリ故ニ迅速ニ議決スルハ立法ニ於テ須要トスル處ニアラス又希望スル處ニモアラサルナリサレハ二院ヲ置キタレハトテ別ニ立法上ニ障礙ヲ與フルモノニ非ス而シテ二院ノ制ハ一院ニテ輕躁事ヲ誤ルノ弊ヲ防キ殊ニ民撰議院ニ於テ濫リニ其權力ヲ擴張シ政綱ヲ紊サントスルカ如キ場合ニ際シテ能ク其奔逸ヲ防遏スルコトヲ得

三、純然タル民撰議院ノ外ニ貴族院ノ設アルトキハ民撰議院ノ民權主義ニ對シ實ニ緊要ノ制限ニシテ能ク其權力ノ濫用ヲ防クコトヲ得ヘシ

四、立憲君主國ニ在テ最モ注意スヘキハ若シ一院ノミナルトキハ議院ト君主ノ間ニ軋轢ヲ生シ易スキハ歐洲諸國古來ノ經驗ニ徵シテ明カナリ然ルニ二院ノ制度ハ之ニ異ナリ君主ハ全ク政黨ノ外ニ立テ其争ニ關セス二院ノ間ヲ節制スルノ器トナリテ之ヲ調停ス故ニ國家ハ統一セラル、所ヲ得君主ハ安然トシテ其尊位ヲ失ハス立法官ハ確然トシテ其權限ヲ愆ラズ皆等シク中庸ヲ得ヘキナリ

以上四點ハ二院制度ノ最モ著シキ長處ニシテ民政政體ノ國ニ在リテモ猶概テ此制度ヲ採ル所以ナリ殊ニ數百年來世襲貴族ノ存立スル我邦ニ於テハ最モ適當ノ制度ト云フ

可キナリ

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及敕任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

本條ハ帝國議會ヲ組織スルニ院ノ一ナル貴族院構成ノ元素ヲ定メタルモノナリ

貴族院ノ組織法ハ衆議院トハ全ク其主義ヲ異ニセサル可カラス何トナレハ全一ノ主義ヲ以テ組織シ全一ノ職務ヲ執ル所ノ機關ヲシテ二個併ヒ立タシムルハ固ヨリ理ノ許サ、ル所ナレハナリ、サレハ貴族院ヲシテ能ク其原則ニ合シ其職務ニ適セシメンニハ別ニ政治上固有ノ主義ヲ有シ固有ノ職掌ヲ有スル組織ナラシメサルヘカラス抑モ貴族院ハ國家ニ於ケル門閥ノ原素ヲ代表スルモノニ

シテ衆議院ハ一般ノ庶民ヲ代表スルモノトス即チ貴族院ハ君主ト庶民トノ間ニ介立シテ敢テ君主ニヨラス又人民ニ黨セス自己固有ノ門地位望ニ賴テ自ラ其勢力ヲ維持スルモノナリ故ニ其勢力ハ則チ其位地ニ在リ、サレハ其議員ハ貴族タルニ耻チサル者ニ限ル夫ノ徒ラニ虚位ヲ擁シ虚名ヲ有スル者ノ如キハ實ニ其議員タルハ資格ナキモノト云フ可シ是レ貴族院令第一條ニ示ス如ク左ノ成分ヲ以テ組織スル所以ナリ

一 皇族

貴族院ノ議員タルニ要スル年齢ハ滿廿五年以上或ハ三十年以上(貴族院令第三條第四條第五條)ナレトモ皇族ノ方々ニ在リテノ御列席ハ御成年ニテ足レリトスルモノ

ハ(同令第二條)早ク政治ニ御訓練アラセラレノコトヲ要ス
レバナリ

二公侯爵

貴族院議員ハ勢力アリ資産ヲ有シテ且ツ鞏固ナル世襲
貴族タルヲ要ス是レ公侯ノ二爵ヲ有スル者ニ限リテ世
襲セシムル所以ナリ

三同爵中ヨリ撰舉セラレタル伯子男爵

伯子男爵ノ者ヲシテ悉ク議院ニ列セシムル時ハ其員數
多キニ失ス是其同爵中ヨリ互撰セシムル所以ナリ而シ
テ其互撰セシムル所以ハ其自己ノ性質ニ於テ既ニ貴族
タルヲ以テ撰舉法ニヨリテ其同爵中ヨリ互撰スルハ固
ヨリ妨ケナケレハナリ

四國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ敕任セラレタ
ル者

國家ニ勳勞アル者ヲ舉ケテ議員ト爲スハ最モ獎勵ノ良
法ニシテ且ツ其勢力能ク人民ノ輿論ヲ制スルニ足ルヘ
ク又學術ハ高尚ナル精神上ノ勢力ヲ有スルモノナレハ
大ニ政治上ニ効用アリ殊ニ此等ノ新元素ヲ如入シ以テ
常ニ貴族院ノ勢力ヲシテ腐敗セシメサランコトヲ要スレ
ハナリ

五各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ
納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互撰シテ敕任セラレタル者
農ヲ以テ本ト爲ス我國ニ在テハ專ラ不動産ヲ尊重ス從
テ其所有者ハ自ラ一般人民ノ尊敬ヲ受ケ殊ニ夥多ノ不

動産ヲ世襲スル者ハ概テ輕躁浮薄ノ舉動ナキモノナレハ貴族院ヲシテ保守主義ヲ取ラシムルニハ此等ノ元素ヲ加入スルヲ最モ必要ノ事トス又不動産ニアラサルモ巨萬ノ富ヲ有スルモノ、大ニ位望ヲ占ムルハ明瞭ノ事實ナレハ此等ノ者ヲ加ヘテ之レヲ組織スルハ貴族院ヲシテ其勢力ヲ維持セシムルニ必要ニシテ且ツ門閥ヲ代表スル貴族院組織ノ主義ニ適スルモノナリ

貴族院議員ノ任期タル若シ甚々短キ時ハ其之レヲ設置シタル目的ヲ達スル能ハス原來貴族院組織ノ主義ヨリ論スルトキハ議員ノ任期ハ其特別ノ地位ヲ有スル間ハ之ヲ繼續セシムヘキモノトス是レ貴族院令第一條第二項及ヒ第四項ノ者ノ任期ハ終身トシ同條第三項及ヒ第

五項ノ選舉ニ出ツルモノ、任期ハ七年ト定メ(同令第四條第六條)之ヲ衆議院議員ノ任期ニ比シテ大ニ延長セル所以ナリ

第三十五條 衆議院ハ撰擧法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

本條ハ衆議院ノ組織法ヲ定メタルモノニシテ衆議院ハ選舉法ニヨリ選舉權ヲ有スル一般人民カ自身ニ選出スル所ノ代議士ヲ以テ組織スルモノトス

貴族院ト衆議院トハ其組織ノ主義ヲ異ニセサル可ラス而シテ貴族院ハ國家門閥ノ原素ヲ代表スルモノナレハ其主義ニ基キ組織スヘキコトハ既ニ前條ニ說明セリ衆議院ハ全國一般ノ庶民ヲ代表スルモノナレハ亦其主義ニ基キ之

ヲ組織セサル可ラス是レ即チ衆議院ハ民撰ニ出ル議員ヲ以テ組織スル所以ナリ

抑モ議員ヲ撰出シ議會ヲ開キ全國人民ノ意向ニ基キテ施政ヲ爲スハ實ニ代議政體ノ基本ニシテ其代議士選舉方法ノ如何ニヨリ或ハ人民ノ權利ヲ擴張シ或ハ制限スルモノニシテ人民ノ權利ヲ認ムルト否トハ一ニ此選舉方法ノ如何ニ存ス、サレバ此選舉方法ニ付テハ先ツ第一ニ選舉ハ權利ナリヤ將タ職務ナリヤト云フカ如キ基本ノ問題ヨリ普通選舉ト制限選舉ノ可否直接選舉ト間接選舉ノ得失等最モ綿密ノ注意ヲ以テ講究ヲ要スヘキモノ尠シトセス今左ニ其大要ヲ説カン

選舉ハ人民固有ノ權利ナリヤ又ハ一個ノ職務ト見做スヘ

キモノナル乎ハ先ツ第一ニ生スル問題ニテ之ヲ權利ナリトスレハ其結果ハ普通選舉ノ方法トナリ又之ヲ職務ナリトスレハ制限選舉ノ方法トナル此制限選舉ト普通選舉トハ人民參政權利ノ消長ニ關スルヲ以テ古來學者ノ心力ヲ極メテ論究スル所ナリ

今左ニ選舉ハ權利ニ非スシテ職務ナリトスル説ノ要點及ヒ其駁説ヲ示サン

第一、法律ノ制定ハ一ツノ職務ナリ然ラハ之ヲ制定スル所ノ人ヲ指命スルモ亦職務ナリ其職務ヲ行フニハ其レ相當ノ者ナルヲ要ス既ニ相當ノモノナルコトヲ要ストセバ其職務ヲ誠實ニ行フ所ノ保證ナカル可ラス而シテ保證ノ主タルモノハ則チ財産ナリ是レ選舉者ノ資格ニ於

テ財産ノ必要欠ク可ラサル所以ナリ加之一國ヲ維持スルハ租税ニアルヲ以テ其租税ヲ分擔スル所ノ財産所有者ニ限り參政ノ權ヲ與フヘク其財産ヲ所有セス其租税ヲ分擔セサル者ニ之ヲ與フヘキ理由ナリト然ルニ撰舉ハ權利ニシテ職務ニアラストスル論者ハ之ヲ駁シテ曰ク凡ソ一國公共ノ事務ハ單ニ財産ニノミ關スルモノニアラス性命ニ關スルモノアリ自由ニ關スルモノアリ陸海軍ニ關スルモノアリ一己人ノ人權上ニ關スルモノアリ又直接ニ租税ヲ負擔セサレハトテ間接ニハ之ヲ拂ハサルモノアラサルヘシ縱シ假ニ毫モ租税ヲ拂ハサルモノアリトスルモ社會ノ事業ハ單ニ金錢ノミニ依テ成ルモノニアラス勞力ヲ用ユルモ國ニ盡スコト

ヲ得ヘシ否ナ却テ一國ノ福祉ヲ増スハ勞力ナルコトアリ而シテ此者ニ在テ公共事務ニ參與スルハ其人ノ利益ナリ然ラハ撰舉ハ職務ニ非スシテ權利ナリト云ハサル可ラスト

第二富者ハ其地位貧者ノ上ニアリ蓋シ財産ト教育トハ併ヒ存スルモノニシテ財産ハ人ノ地位ヲ代表スル最モ明瞭ナルモノナリ而シテ教育ヲ受ケ智識ヲ有スルモノヲシテ之ヲ撰舉セシムルニ非サレハ決シテ好結果ヲ得ル能ハス故ニ撰舉權ニハ必ラス財産ノ制限ヲ置カサル可ラスト

反對論者ハ曰ク此ノ說ノ如キハ之ヲ駁ス可キ價アルモノニアラス何トナレハ財産ト智識トハ必スシモ併存ス

ルモノニアラサルハ吾人カ現ニ目撃スル事實ナルヲ如何セシ此ノ説ノ如キハ徒ラニ想像ニ過サルナリト

第三富者ハ自ラ持重ノ氣象アルヲ以テ不羈獨立敢テ他ノ束縛ヲ受ケサルモノナレハ其投票ヲ爲スモ亦自由ナリ決シテ他人ノ囑托指揮ニ依テ左右セラレ、モノニアラス然ルニ貧人ハ常ニ他人ノ囑托指揮ヲ受ケ易ク撰擧ノ事ヲ以テ其利慾ヲ満足スルノ手段ト爲スモノ多シ而シテ撰擧ニ貴フ所ハ不羈獨立毫モ他ノ束縛ヲ受ケサルニアリ然ラハ撰擧權ニハ必ス財産ノ制限ヲ設ケサルヘカラスト

之ヲ駁スル者ハ曰ク此説モ亦實際ニ迂濶ナルモノナリ何トナレハ富者ニ限り公平ノ心ヲ以テ撰擧スルモノトハ云ヒ難ク又貧人ナリトテ強チ利慾ノ爲メニ制セラレ、モノト云フ可ラス加之ナラス富者ノ心術却テ貧者ニ劣ル者多シ然ルニ貧人ノミ義ヲ輕シテ利ニ走り富者ハ義ヲ重シテ利ニ赴カストスルハ人情ニ迂濶ナル説ト云フヘキナリト

二説共ニ論スル所各々理アリテ固ヨリ淺學ナル著者ノ判斷シ得サル所ナレトモ彼ノ有名ナル「ミル」氏ハ權利説ヲ唱道セリ其著述ニ係ル代議政論中撰擧ノ事ヲ論セシ中ニ云ヘルアリ曰ク若シ各人カ租稅ヲ納ムル義務ヲ有スルナラハ若シ各人カ軍役ニ服スル義務ヲ有スルナラハ若シ各人ニ法律ヲ遵守セシムルコトヲ必要トスルナラハ何故ニ斯クノ如キ乎ヲ知ルノ權ヲ有セシメサル可ラス即チ各人

ノ思想ヲ發達スル所ノ諾否ノ權ハ各人ニ於テ有セサル可
ラスト實ニ剴切ナリト云フヘシ

我衆議院議員選舉法ハ如何ント尋ヌルニ選舉人ニ要スル
資格ヲ定メタル該法第六條第三項ニ於テ直接國稅十五圓
ヲ納ムル條件ヲ要スルモノトセリ然ラハ我衆議院議員ノ
選舉ハ制限選舉法タルヤ明カナリ

又議員選舉ニ直接間接ノ區別アリ此區別モ亦緊要ノ問題
ニ係ルヲ以テ畧說スヘシ

直接選舉トハ人民ノ代議士ヲ撰ムニ各人民ト代議士トノ
中間ニ介入スルモノナクシテ各自隨意ニ自己ノ望ミヲ屬
スル所ノモノヲ選舉スルモノヲ云ヒ之レニ反シテ間接選
舉トハ各人民ヲシテ直ニ代議士ヲ撰出セシメスシテ先ツ

己レニ代リテ選舉ヲ行フ所ノ代人ヲ選舉シ此選舉代人ニ
於テ代議士ヲ選舉スルモノヲ云フ

原來代議政體ノ本主義ヨリ論スルトキハ議員ノ選舉ハ無
論直接ナラサル可ラス何トナレハ直接ニアラサレハ人民
ノ意望ヲ正確ニ代表スルコト能ハサレハナリ此點ニ付テ
ハ敢テ異論ヲ試ミント欲スル者ナキモ或ル場合ニ在テハ
間接選舉ヲ必要ナリト論スル者アリ其場合ハ一般人民政
治ノ思想ニ乏シキカ又否ラサルモ人民ハ兎角輕躁過激ニ
涉リ易キモノナレハ沈着持重ヲ要スヘキ議員ノ選舉ヲ斯
ル人民ニ放任スルハ甚タ危險ナリ宜シク間接選舉ヲ用ニ
ヘシト然レトモ這ハ誤謬ノ說ト云ハサルヲ得ス
抑モ人民ニ選舉權ヲ與ヘタル所以ハ公共ノ事務ハ人民ノ

私利私益ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テナリ此關係コソ實ニ代議士必要ノ根本ニシテ代議士ノ必要ハ從テ撰舉ノ根本トナルナリ然ルニ間接撰舉ヲ用ヒントスルハ代議ノ由テ起ル所以ニ反スルモノナリ語ヲ換ヘテ云ヘハ代議ハ名ノミニテ其實代議ニアラサルナリ又實際ニ付テ論スルモ適當ノ代議士ヲ選舉シ得ヘキ適當ノ選舉代人ヲ選ヒ得ルモノナレハ何ソ適當ノ代議士ヲ選ヒ得サルノ理アラザヤ若シ又適當ノ代議士ヲ選ヒ得サルモノナレハ亦適當ノ選舉代人ヲ選ヒ得可ラサル筈ナリ然ラハ假令ヒ人民政治思想ニ乏シキ場合ニ在テモ間接撰舉ニヨル可キノ理ナキヤ明ラカナリ

又政治思想ニ富ムモ一般人民ハ輕躁過激ニ涉リ易キモノ

ナレハ間接撰舉ヲ用ユヘシトハ迷誤ノ甚シキ者ニシテ此場合ニ在テモ間接撰舉ノ必要ナク又直接撰舉ヲ行フモ論者カ憂フルノ危険ナキナリ今其適例ヲ舉クレハ北米聯邦大頭領ノ撰舉ハ間接撰舉ノ方法ナリ此法ヲ用ユル所以ハ蓋シ一般人民ハ其人物ノ適否ヲ知ルニ難カル可キノヨリ然ルニ今日ニ在テハ人民政治思想ノ大ニ發達セシヨリ之カ撰舉代人ヲ撰ムニ當テ先ツ誰某ヲ撰舉セヨ然ラハ汝ヲ撰舉代人ニ撰舉スヘシト豫シメ大頭領タルヘキ人ヲ指名シ而シテ後撰舉代人ヲ撰舉スル現況ナリト云フ是レ一般人民政治思想ニ富ムトキハ其撰舉ヲ忽諸ニ付セス先ツ條件ヲ付シテ撰舉代人ヲ撰舉スルニ至ルヲ以テ更ニ間接撰舉ヲ爲スノ必要ナク又直接撰舉ヲ行フモ更ニ危険ナキ適

例ニシテ何レノ點ヨリ論スルモ到底間接選舉ヲ要スヘキ理由ヲ發見スル能ハサルナリ
抑テ我衆議院議員選舉ノ方法ハ直接ナリヤ將タ間接ナリヤト云フニ衆議院議員選舉法第三十七條ニ定ムル如ク選舉人ハ自ラ投票所ニ出テ、投票スルモノトス而シテ其選舉人トハ同法第六條ニ定ムル三個ノ條件ヲ具備シタルモノヲ云フ然ラハ我衆議院議員ノ選舉ハ全ク直接選舉ノ方法ニシテ予輩カ常ニ主張スル論旨ヲ満足スルモノト云フヘシ
其他選舉ニ付テハ講究ヲ要スルモノ頗ル多シト雖トモ以下各條ヲ解説スルニ當リ時ニ觸レテ説明セン

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

本條ハ何人ニテモ貴族院議員ト衆議院議員トヲ兼任スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルナリ
抑モ兩議院ハ互ニ相制シテ權衡ヲ保ツヘキモノ故若シ兩議院ニ兼任ヲ爲シ得ルモノトセハ憲法上ノ施設ハ忽チ其平均ヲ失シ議員ハ一面ニ於テハ自ラ議定シ又一面ニ於テハ自ラ之ヲ控制スルニ至ルヘシ又第四十四條ニ定メタル如ク兩院ハ同時ニ開閉スルモノナレハ實際兩議員ノ兼任ハ爲シ得可ラサルナリ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

本條ハ凡テ法律ハ帝國議會ノ議決ヲ經テ其議會ノ同意シタルモノナラテハ其効ナシ故ニ法律ハ必ス國會ノ同意ヲ經サル可ラスト定メタルモノナリ

主權ノ所在ニ付テハ憲法學者ノ間ニ於テ最モ議論ノ存スル處ナレトモ我國ニ在リテハ陛下ノ掌握シ給フコトハ既ニ第四條ニ明文アリヨシ此明文ナシトスルモ固ヨリ論スルマテモナク明瞭ノコトナレトモ國會ニ在テモ亦其立法權ノ一部分ヲ有スルハ第五條及ヒ第八條ノ法文ニ照シテ明ラカナリ即チ第五條ニ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス」トアルヲ以テ明瞭ナリ

抑モ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト云ヒ又協賛ヲ經ルヲ要スト云フモノハ原來主權即帝國統治ノ權ハ天皇陛下ノ總攬シ給フ所ナレトモ其實行ニ至ツテハ陛下御一人ニテ萬般ノ細事ヲ御親裁アラセラル可キニアラサレハ立法ノ事務ハ議會ヲ設ケテ之レニ委テ行政ノ事務ハ内閣ヲ置テ之レ

ニ托サセ給フモノニシテ既ニ斯ク御委托アラセラレタル以上ハ之レヲ實行スルハ受托者ノ任ナリ則チ立法事務ヲ實行スルハ帝國議會ノ職任ナリ既ニ帝國議會ハ立法事務ノ實行ヲ以テ其職任トスレハ苟モ國民一般ニ遵守スヘキ法律ヲ制定廢止變更スルニハ議會ノ協賛シ奉ル所ヲ以テ御施行アラセラルヘキハ憲法發布ノ敕語ノ面ニ明ラカナリ是レ即チ第五條及ヒ本條ノ法文ヲ以テ此義ヲ明確ニ御治定アラセラレタル所以ニシテ凡テ法律ハ議會ノ協賛ヲ經ルヲ必要ナリト定メタル第三十七條ハ則チ第四條ニ所謂憲法ノ條規ナリ故ニ主權即チ統治ノ權ハ固ヨリ陛下ノ總攬シ給フ所ナレトモ之レヲ實行スルハ此條規ニヨリ必ス國會ノ協賛シ奉ルニアラサレハ法律タル効力ヲ有セサ

ルナリ加之ナラス第八條第二項ニヨルモ法律ノ効力ヲ有
スルモノハ總テ國會ノ同意ヲ得サル可ラサルモノナリ然
ラハ立法權ノ一部ハ國會ニ存スルヤ亦明カナリ噫吾人臣
民ノ大政ニ參與シ千古無前ノ幸福ニ浴スルモノハ一ニ本
條ノ存スルニヨル嗚呼本條ハ實ニ國民ノ金科ナリ嗚呼本
條ハ實ニ國民ノ玉條ナリ

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各

々法律案ヲ提出スルコトヲ得

本條ハ議院ノ職務及ヒ權利ニ關スル規定ニシテ兩院ハ政
府ヨリ議會ニ付セントシテ持出ス法律ノ草案ヲ取調ヘ討
議シテ其可否ヲ決定シ又二院トモ自分自ラ法律ノ草案ヲ
作リテ會議ニ持出スコトヲ得ル旨ヲ定メタルナリ

原來議案ハ政府ヨリ提出スルヲ本則トスレトモ兩院モ亦
各々自ラ之レヲ提出スルノ權ヲ有ス此議院自ラ議案ヲ提
出スルノ理由ニ付テハ一言セサル可カラズ
抑モ政府ノ職務ハ國民利民福ヲ進ムルニ在リサレハ苟クモ
國家ノ利害ニ關スル事ニ付テハ常ニ意ヲ注ヒテ之レニ處
スルノ法律ヲ設クルニ怠ラサルヘシト雖トモ時ニ或ハ遺
漏ナシトセス此場合ニ在ツテ國會ハ必ラス政府ニ對シテ
其遺漏ヲ補ハンカ爲法案ヲ調製シテ提出セシコトヲ建議
スルナルヘシト雖トモ或ハ政府ニ於テハ意見ヲ異ニシ之
レカ規定ヲ必要ト認メスシテ其建議ヲ採納セサルコトナ
キヲ保シ難シ此場合ニ於テ若シ國會自ラ議案ヲ提出スル
ノ權ナキトキハ之レヲ如何トモスル能ハサルヘシ是レ即

チ議院ヲシテ自ラ發案スルノ權ヲ有セシメタル所以ニシテ行政權ノ專權ヲ制スル緊要ノ規定ナリ
議案ニシテ政府ノ提出ニ係ルモノハ先ツ委員ノ審査ヲ經テ而シテ後議決スヘキモノトス是レ充分綿密ノ調査ヲ遂ケ輕卒事ヲ誤ルカ如キ憂ナカラシムルニアリ然シナカラ至急ヲ要スル場合ニシテ特ニ政府ノ要求アルトキハ審査ヲ經スシテ議決スルコトヲ得(議院法第二十八條)
又數個ノ議案アルトキハ政府ノ提出シタル議案ニ先ツテ他ノ提出ノ議案ヲ議スルコトヲ得ス若シ政府ニ於テ提出シタル議案ヲ後ニスルトキハ或ハ開會期限ノ經過シ終ニ議決スル能ハサル場合ヲ生センモ知ル可ラス從テ施政上ニ支障ヲ來スノ恐レアレハナリ然シナカラ他ニ要急ノ議

案アリテ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此限ニアラズ(同法第二十六條)其他議決ノ方法ヨリ其議決ヲ奏上スル手續ハ詳カニ議院法第二十七條乃至第三十二條ニ規定セリ

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

本條ハ貴族院又ハ衆議院ニ於テ一旦否決シタル議案ハ同一ノ會期中ニハ再ヒ議院ニ持テ出スコトヲ得スト定メタルナリ
兩議院中ノ一院ニ於テ否決セラレタル法律案ヲ同會期中ニ再ヒ提出スルコトヲ許サ、ル者ハ議院ノ權ヲ尊重シタル者ナリ若シ然ラスシテ甲院ニ於テ否決シタルトキ直ニ之レヲ乙院ニ提出スルモノトセハ甲議院ノ議決ヲ蔑視ス

ルノ甚シキモノナリ加之ナラス可決ハ必ラス兩院ノ一致ヲ要スルヲ以テ若シ其否決シタル法律案ヲ乙議院ニ提出シ其ノ院ニテ可決スルトキハ再ヒ之レヲ甲議院ニ移サ、ル可カラス然ルニ甲議院ハ曾テ否決シタル議案ナレハ數日ノ間ニシテ能ク其前議ヲ變シ之レヲ可決スルカ如キハ甚々望ミ難キ事ナリ否却テ益其前議ヲ確執セシムルニ至ル何トナレハ過ヲ改ムルニ吝ナラサルハ君子ノ美德ナレトモ威權ヲ殞スルノ恐ヲ抱キ益前議ヲ確執スルハ蓋シ亦人情ノ免カレ難キ所ナリ是レ同一會期中ニ在テハ再ヒ提出スルコトヲ許サ、ル所以ナリ殊ニ一院ニ於テ否決スルトキニ直チニ之レヲ他ノ院ニ提出スルコトヲ得ルモノトヒハ是レヨリシテ議會ハ或ハ行政權ノ蹂躪スル處トナリ

或ハ兩院ノ間ニ最モ忌ムヘキ軋轢ノ端ヲ開クニ至ル是レ即チ本條ノ規定アル所以ナリ
先ツ議案ヲ受ケタル甲院ニ於テ之レヲ可決シ或ハ之レヲ修正シタルトキハ之レヲ乙院ニ移ス然シテ乙院ニ於テ之レニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之レヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知ス又乙議院ニ於テ修正ヲ加ヘタルトキハ甲議院ニ回附ス故ニ議案ヲ一院ヨリ一院ニ移スハ最初議案ヲ受ケタル議院ニ於テ之レヲ可決シタル場合ト二院中何レカノ一院ニ於テ修正ヲ加ヘタル時ニ限り否決シタル場合ニ於テハ決シテ移付スルモノニアラス又修正ニ付二院ノ意見一致セサルトキハ兩院協議會ヲ開キテ之レヲ決スルモノトス其他詳細ノ手續ハ議院法第五十三條乃至第

六十一條ニ就テ見ルヘシ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意

見テ政府ニ建議スルコトヲ得

但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

兩院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付意見アルトキハ政府ニ對シテ建議スルノ權アルヲ示シタルナリ

抑モ兩院ハ行政機關即チ政府ニ對シ帝國全部ヲ代表シ傍ハラ其行政ヲ監視スルモノナリ然ラハ國ノ利害ニ付意見アラハ之レヲ建議シ得ヘキハ當然ナリ然レトモ明文ノアラサル以上ハ政府ニ於テ之レヲ拒絕スルコトナキモ保スヘカラス是レ本條ノ明定アル所以ナリ而シテ其建議ヲナ

ス手續ハ議院法第五十一條第五十二條ノ規定ニ從ヒ三十名以上ノ賛成ヲ得ルニ非ラサレハ議題トナスヲ得ス是レ議院ノ意見トシテ建議スルモノナレハ其事重大ナルヲ以テ少クモ三十名ノ賛成ヲ得ルニ非ラサレハ固ヨリ議會ニ付スヘキ價值ナキモノト見做シタルナリ

政府ニ於テハ議院ヲ尊重シ其建議ハ可成採納スルナルヘシト雖モ議院ハ固ヨリ行政ニ干涉スル權ナシ故ニ之カ採否ハ政府ノ權内ニアルヲ以テ常ニ政府ノ採納ヲ必シ難シ故ニ若シ政府ニ於テ其意見ヲ採納セサル事アルモ議院ハ同一會期中ニ於テ再ヒ建議ヲ爲スヲ得ス若シ之ヲ再三再四スルヲ得ルモノトセハ終ニ政府ノ採納スルニ非ラズンハ止マサルニ至リ其極議院ハ行政權ヲ侵害シ行政ノ要旨

タル臨機活動ノ自由ヲ箝制シ終ニ不測ノ大害ヲ醸スニ至ル是レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之レヲ召集ス

本條ハ帝國議會ハ毎年之レヲ開クモノナルコトヲ定メタルモノニシテ若シ本條ノ規定ナケレハ毎年之レヲ開クヘキカ將タ數年ニ一回ヲ開クヘキモノナルカ之レヲ知ルコトモ或ハ三年(巴威里憲法第七章第二十二條)或ハ六年(比國憲法第三十四條)ニ一回ヲ開クモアリ而シテ其議會召集ノ手續ノ如キハ議院法第一條ニ規定セリ就テ看ルヘシ

第四十二條 帝國議會ハ三ヶ月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ敕命ヲ以テ之レヲ延長スルコトアルヘシ

本條ハ帝國議會ハ三ヶ月ヲ以テ會期ト爲セトモ必要アル場合ニ於テハ敕命ニヨリ三ヶ月外ニ延長スルコトモアルヘントノ旨ヲ定メタルモノニシテ通常三ヶ月外ニ涉ルヲ得ス若シ此規定ナケレハ周年ヲ通シテ開會スルカ如キ不都合ヲ生スルコトナシトセス若シ三ヶ月内ニ於テ議案建議請願ノ議決シ終ラサルモノアルトキハ之レヲ消滅シタルモノトシ後會ニ繼續セサルモノトス然シナカラ政府ノ要求ニヨリ又ハ政府ノ同意ヲ得テ議院ハ開會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得(議院法第三十五條及ヒ第二十五條)然ルトキハ其議案ハ後會ニ繼續スルモノトス

又三ヶ月ノ期限滿ツルモ必要アル場合ニ於テハ閉會スル

コトナクシテ引續キ開會スルコトヲ得レトモ其延長ハ常ニ敕命ニヨル故ニ敕命アルニアラサレハ如何ナル場合ト雖トモ三ヶ月以外ニ涉リテ開會スルコトヲ得ス然シナカラ議院法第三十三條ニヨリ停會中ハ此三ヶ月ノ期限モ亦停止シ經過セザルハ勿論ナリ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時

會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ敕命ニ依ル

帝國議會ニハ二ヶノ區別アリ一ヲ常會ト云ヒ一ヲ臨時會ト云フ常會ハ第四十一條ニ定ムル如ク毎年一回一定ノ時期ニ開キ臨時會ハ本條ニ示ス如ク臨時緊急ノ必要アル場合ニ開クモノナリ其緊急ノ必要トハ其事件公共ノ安寧秩序ヲ保チ臣民ノ幸福ヲ増進スルニ必要ニシテ且常會ノ開期ヲ俟ツ能ハサル場合ヲ云フ斯ノ如キ場合ニ於テハ宜シク臨時ニ議員ヲ召集シ其議決ニ從テ之レカ所置ヲ爲スヘキナリ然レトモ本條ノ場合ハ第八條ノ定ムル場合ト異ニシテ本條ハ事件常會ヲ待ツ能ハサル時ニシテ該條ハ其事件公共ノ災厄ヲ避クルニ於テ防禦瞬間ヲ爭フニ方リ臨時會ヲモ召集スル暇ナキ場合ナレハ其間大ニ區別アルコトヲ信ス其臨時會ノ會期ノ如キハ其事件難易繁簡アリ固ヨリ豫メ定ムルヲ得ス是レ其時ニ臨ミ勅命ニヨル所以ナリ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院

同時ニ之レヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトギハ貴族院ハ同時ニ停會セ

ラルヘシ

本條第一項ハ帝國議會ヲ關閉シ又三ヶ月以外ニ延長シ或ハ第三十三條ヨリ停會スルコハ必ラス兩院同時ニ之ヲ行フヘキ旨ヲ定メ第二項ハ第一項ノ主義ヨリシテ衆議院ノ解散ヲ命セラレタルトキハ其レト同時ニ貴族院モ亦停會スベキ旨ヲ示シタルナリ

帝國議會ノ開閉延期及ヒ停會ヲ兩院同時ニ行フモノトシ一院ノ閉會又ハ停會中ハ他ノ一院モ亦開會スルヲ得スト定メタル所以ハ抑モ法律ノ制定ハ兩院一致可決ヲ要スルモノナリ故ニ一院ニ於テ之レヲ可決スルモ他ノ一院ニ於テ否決スルトキハ其議案ハ廢棄セラルヘキモノナリ加之先ツ議案ヲ受ケタル一院ニ於テ可決スルトキハ直チニ之

レテ他ノ一院ニ移付セサルヘカラス然ルニ他ノ議院ニシテ閉會又ハ停會中ニ係ルトキハ之レヲ移付スルニ由ナシ殊ニ時期ヲ異ニシ各別ニ召集シ開會シ得ルモノトスルトキハ時ニ或ハ政府其間ニ私意ヲ逞シクスルノ恐レナキニ非ス是レ其同時ニ開閉スルモノト定メタル所以ナリ又衆議院ニ於テ憲法ノ規定ニ反シ國ノ安寧ヲ害セントスルカ如キ場合ニ於テ解散ヲ命セラレタル時ニ會シ若シ貴族院ノミ獨リ會議ヲ開キテ議決ヲナシ得ルモノトセハ前陳ノ旨趣ニ反スルノミナラス是ヨリ不測ノ大害ヲ生セン是レ第二項ノ規定アル所以ニシテ此場合ニ際シテハ貴族院モ亦同時ニ停會スルモノト定メタルモノナリ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ敕命ヲ以テ

新ニ議員ヲ撰擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

本條ハ第七條ニ説明スル如ク衆議院ニ於テ憲法上ノ規定ニ反シ其權限ヲ越ヘ國ノ治安ヲ害セントスルヨリ解散ヲ命セラレタル場合ニ付キ規定シタルモノニシテ其時ハ敕命ヲ以テ新々ニ議員ヲ撰擧セシメ解散ノ日ヨリ遅クモ五ヶ月以内ニ召集シ議會ヲ開クモノト定メタルナリ而シテ若シ前議會ニ於テ未タ議決ニ至ラサル議案アルトキハ其議事ハ之レヲ繼續セスシテ更ニ討議スヘキハ勿論ナリ
貴族院ニ於テモ前條第二項ニヨリ停會スルトキハ前議事ヲ繼續セス更ニ改メ議スヘキモノトス(議院法第三十四條)

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席ス

ルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スニ要スル出席議員ノ數ヲ定メタルモノニシテ兩院各其議員總數ノ三分一以上ノ出席アルヲ要ス故ニ此定數ニ達セサルトキハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス
其斯ク定メタル所以ハ既ニ帝國議會ノ組織ヲ説クニ當リテ詳説セル如ク帝國議會ハ國民ヲ代表スルモノナリ然ルニ其出席者總數三分ノ一ニ及ハサルトキハ此代表ノ主旨ニ適セサレハナリ然レトモ余輩ハ此主旨ヨリシテ其希望スル所ヲ云ヘハ議員總員ノ半數以上出席スルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得スト規定アラノコトヲ切望セサルヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナ
レハ議長ノ決スル所ニ依ル

本條ハ議決ノ方法ヲ定メタルモノニテ兩院トモ議事ハ出
席議員半數以上ノ同意スル說ニ決ス若シ同數ナルトキハ
議長ノ可否スル所ニ決スルモノトス
抑モ議事ノ決定ハ總議員ノ一致ニ如クモノナシト雖トモ
如此ハ殆ント望ム可キニアラス少クモ可否ニ說ニ分岐ス
ルハ概シテ避ク可ラサル事實ナリ然ラハ之レヲ決スルノ
方法ヲ定メサル可ラス本條ハ則チ此議決法ヲ定メタルモ
ノニシテ其規定ニ依レハ過半数ノ同意スル所ニ決ストセ
リ故ニ例ハ一議案ニ付三說併ヒ生シテ何レモ過半数ニ達
セサルトキハ三說中少數ノモノヲ除棄シ最多數ノ二說ニ

就キ去就ヲ決セシメ其過半数ヲ得ルモノニ決ス若シ可否
同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニヨル議長ノ決スル所ニ
ヨリテ定ムト云フトキハ議長ノ權力甚タ強キカ如シト雖
トモ其實議長モ亦議員ノ一人ナリサレハ其議長ノ從フ所
ハ則チ過半数ヲ得タルモノニテ唯採決ノ前後ニ於テスル
ノ差アルノミ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其
ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

本條第一項ハ貴族院衆議院トモ其會議ハ何人ニテモ隨意
ニ傍聽セシムヘキ旨ヲ定メ第二項ハ第一項ノ例外ニテ政
府ノ請求アルカ又ハ其議院ノ決議ニヨリテハ傍聽ヲ禁ス
ルコトヲ得ル旨ヲ示シタルナリ

會議ノ公行ハ立法院至要ノ條件ニシテ其裨益ノ數多ナル
 枚擧ニ違アラスト雖トモ亦國ノ公益世ノ風紀ニ於テ公衆
 テシテ議事ヲ傍聽セシムル可ラサル場合アリ例ハ外交ニ
 關シ秘密ヲ要スル事件ノ如キ是ナリ然レトモ少數議員ニ
 於テ濫ニ密行請求ノ弊ヲ防カンカ爲メ議院法第三十七條
 ニ於テ之レカ制限ヲ設ケ議長又ハ議員十名以上ノ發議ニ
 由リ議院之レヲ可決シタル時及ヒ政府ヨリ要求ヲ受ケタ
 ル時ノ二個ノ場合ニ限り其他ハ決シテ之レカ密行ヲ許サ
 ヲルモノトセリ而シテ法文ニハ明示ナシト雖トモ一事件
 ニ付テモ密行ハ必要部分ニ限り其部分ヲ議了スレハ直チ
 ニ公開スヘキハ勿論ナリ

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

本條ハ議院ニ於テ意見アルトキハ直ニ天皇ニ上奏スルヲ
 得ルノ權アル旨ヲ示シタルナリ
 抑モ議院ハ國民ヲ代表シ傍ハラ行政ヲ視察シ政府ヲシテ
 其本分ヲ守ラシムル重大ノ任アルモノナリサレハ一國ノ
 公益ニ付直ニ陛下ニ上奏スルノ權ヲ有スヘキハ勿論ナリ
 而シテ其上奏ノ手續ハ議院法第五十一條ニ定ムル如ク或
 ハ文書ヲ以テシ或ハ議長ヲ以テ總代トナシ親シク謁見ヲ
 請ヒ奉呈スヘキモノトス議長ヲ以テ總代ト爲スモノハ議
 長ハ議院ヲ代表スルノ任アレハナリ(議院法第十條)

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコト ナ得

本條ハ貴族院及ヒ衆議院ハ臣民ヨリ差出ス處ノ請願書ヲ

受ルコトヲ得ル旨ヲ定メタルナリ
人民ハ議院ニ請願スルコトヲ得ルハ明カナレトモ、サテ如何ナル事ニテモ請願シ得ルモノナルカ又ハ其事件ノ性質ニヨリ區別アルカハ本條ニテハ明瞭ナラスト雖トモ議院法第七十條ニヨレハ各議院ハ司法及ヒ行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ストアリ司法裁判トハ民事刑事ニ關スル裁判ニシテ行政裁判トハ行政上ニ關スル裁判ナリ此二個ノ裁判ニ關係シタル請願ハ之レヲ受クルコトヲ得スト云フ然ラハ如何ナル事件ニ關シテ請願スルヲ得ル乎之レヲ明ラカニセシニハ先ツ請願ナル文字ノ意味ヲ明ニセサル可カラス
請願トハ希望ノ意ナリ然ラハ自己ノ權利内ノ事ニアラサ

ルハ勿論ニシテ若シ自己ノ權利ニ屬スル事ニ係ルトキハ強ヒテ要求スルヲ得ルナリ故ニ請願ハ權利ニアラスシテ希望ナリ而シテ此請願ニ行政權ニ呈出スルモノト立法權ニ呈出スルモノトノ別アリ

第一 行政權ニ呈出スル請願トハ行政權ノ所爲ニシテ其所爲ハ純粹ノ行政處分ニ屬シ人民ノ權利ヲ害セサレトモ之レカ爲メ利益ヲ害セラル、ノ場合ニ於テ其事情ヲ陳ヘ其當局ノ官廳ニ歎願スルモノナリ佛語ニテ之レヲ「クラスト」云フ恩惠ヲ請願スルノ意ナリ若シ其處分ニシテ人民ノ權利ヲ害スルトキハ其回復ヲ得ンカタメ行政裁判ニ訴フルコトヲ得此時ハ希望ニアラスシテ權利ナリ

第二 立法權ニ呈出スル請願トハ佛語ニ之レテ「ベキシヨ
ノ」ト云ヒ公共ノ利害ニ關シテ希望スルモノニシテ直接
ニ自己ノ利害ニ關係ナキモノヲ云フ即チ建白ノ類ナリ
請願ノ意義斯ノ如シ而シテ本條ニ云フ請願ハ何レニ屬ス
ルカト云フニ第二ノ場合ハ勿論第一ノ場合ヲモ包含スル
モノト云フヘシ何トナレハ議院法第十三章請願ニ關スル
規定ヲ見ルニ各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルヲ
得スト明示シ(第六十七條)又司法及ヒ行政裁判ニ干預スル
ノ請願ヲ受クルコトヲ得スト規定シ其他ニ制限スル處ナ
シ加之ナラス議院ハ其請願書ヲ政府ニ送附シ事宜ニヨリ
報告ヲ求ムルヲ得ルト云ヒ(第六十五條)又請願書ハ總テ哀
願ノ躰式ヲ用ウヘシ(第六十八條)ト云フ此等諸條ニ照ラシ

又歐米諸國ノ例ニ考フルモ單ニ公共ノ利害ニ關シテ直接
ニ自己ノ利害ニ關係ナキ事件ニ限ルモノトハ解スルヲ得
ス故ニ第一ノ場合ニ於テ當局官廳ノ處置其當ヲ得スト思
惟セハ議院ニ請願シ得ヘキモノト信ス何トナレハ議院ハ
實ニ請願哀訴ヲ聽キ建議策ヲ開クヘキノ要地ナレハ之レ
ヲ採用スルヤ否ヤハ衆議ニ任カセ先ツ之レヲ受理スルコ
ト至當ナリ斯ク言ハ、或ハ言ハシテ議院ハ殆ント請願ノ煩雜
ニ耐ヘサルナラント然レトモ議院法第六十二條ニ定ムル
如ク請願ハ必ラス議員ノ紹介ヲ要スルモノナレハ荒唐無
稽徒ラニ議院ノ煩雜ヲ來スカ如キ請願ノ出ツルナキカテ
憂フルハ恐ラク杞憂ニ過キサルヘシ其他請願ニ付テ踐山
ヘキ手續方法ハ議院法第六十二條乃至第七十一條ニ就テ

見ルヘシ

第五十一條 兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内
部ノ整理ニ必要ナル諸規則ニ定ムルコトヲ得

本條ハ議院ハ此憲法及ヒ議院法ニ定メアル規則ノ外ニ議
院ノ事務ヲ整理スルニ必要ナル規則例ハ、ハ議事上ノ細則
又ハ委員事務取扱ノ手續等ヲ定ムルコトヲ得ル旨ヲ示シ
タルナリ

如此條規ヲ憲法中ニ掲載スルハ瑣末ニ涉ルカ如シト雖ト
モ議院自ラ其職務ヲ行フ規定ヲ定ムルノ權ヲ有セサレハ
其議事ノ獨立ヲ保全シ難キノ恐レアリ何トナレハ若シ議
院ニシテ此權ヲ有セサルトキハ或ハ巧ミナル規定ヲ設ケ
議員ノ自由ヲ掣肘シ議員ノ威嚴ヲ妨害スルノ過慮ナキニ

アラサレハナリ特ニ議事規則ノ如キハ各議員ノ權利ヲ守
護スルモノニシテ殊ニ少數議員ノ爲メ之レヲ切要トス若
シ其規則ニシテ不完全ナラン乎少數議員ハ常ニ多數議員
ノ爲メニ壓抑セラル、ノ弊害甚シキニ至ラン是レ即チ各
議員ヲシテ其必要ト認ムル所ノ規則ヲ制定セシムルモノ
ニシテ事稍瑣末ニ涉ルカ如シト雖トモ其關スル處如此重
大ナルヲ以テ特ニ本條ニ明示シタル所以ナリ

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及
表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ
言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ方法ヲ以テ公布シタルトキ
ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

本條ハ議員法律ノ不保任トテ議院ニ於テ職務ヲ行フニ付

爲シタル言論及其議決ニ付テハ院外ニ於テ其責ヲ負フコトナシ即チ議院ニ於テ議事ニ關シ吐露シタル言論ニ付テハ民事刑事ヲ問ハス總テ責罰ヲ受クルコトナキヲ明示シタルナリ例ハ某議員ノ斯ク々々ノ演説ハ自分ヲ誹毀シタルモノナリト告訴シ或ハ損害ヲ與ヘタリト訴フルモ議員ハ決シテ糾問ヲ受ケ賠償ニ任セサルカ如キ是ナリ

第二項ハ前項ニ付テノ注意トモ云フヘキモノニテ議院ニ於テ爲シタル演説及ヒ決議ノ發言ニ付テハ決シテ責任ナシト雖トモ若シ議員自ラ其言論ヲ公衆ニ向ツテ演説シ又ハ印刷ニ付シ筆記トナシ其他種々ノ方法ヲ以テ世間ニ公布シタルトキハ一般ノ法律ノ支配ヲ受ケ其責任ヲ負ハサル可ラサル旨ヲ示シタルナリ

抑モ法律上代議士不保任ノ主義ハ數次ノ困難ヲ經テ先ツ英國憲法中ノ主義トナリ佛國ニ於テ千七百八十九年ノ立憲會議ニ於テ之レヲ明定シタル以來歐洲諸國ノ憲法殆ソト之レヲ明示セサルモノナキニ至レリ

元來議員ノ職務ハ一國ヲ代表シ國民ノ福利ヲ目的トシテ反覆審議スルニ在リ此審議ヲシテ全然欠クル所ナカラシメントセハ勢ヒ議員ヲシテ不羈獨立、毫モ顧慮スル所ナカラシムルヲ要ス然ルニ其言論ニ付法律上ノ責任ヲ負擔セサル可ラストセン乎議員ハ一言ヲ發シ一語ヲ陳ル毎ニ競々トシテ自ラ安ニスル能ハサルベシ斯ノ如クノハ焉ソ能ク其職務ヲ満足スルヲ得ン是レ即チ議員法律上ノ不保任ノ止ム能ハサル所以ナリ

以上陳ル如ク此特典ハ全ク議員ヲ保護シテ其職務ヲ盡サシメント欲スルニ在リ然ラハ第二項ノ場合ハ既ニ職務ニ關係ナキヲ以テ固ヨリ之ヲ保護スヘキ要ナシ是レ即チ一般ノ法律ニヨリテ所分スル所以ニシテ法理上蓋シ當然ノ事ナルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル

罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

本條ハ議員ノ職務ヲ敬重シ其身軀ノ侵スヘカラサルコトヲ鞏固ナラシメンカ爲メ規定シタルモノナリ

議員ハ現行犯罪茲ニ云フ現行犯トハ治罪法第百條及ヒ第百一條ニ云フ現行犯準現行犯ニシテ明治十四年第四十六

號布告ニ云フ彼ノ舉動犯ト稱スルモノハ包含セサルモノト知ルヘシノ場合カ又現行犯ニアラサルモ内亂外患刑法第二編第二章第一節及ヒ第二節參觀ニ關スル罪ヲ犯シタル時ノ外ハ假令如何ナル罪ヲ犯スモ會期中(第四十二條參觀)ニ於テハ其議院ノ承諾ナキ以上ハ決シテ逮捕スルコトヲ得スト定メタルナリ

苟モ罪ヲ犯サハ法律ノ規定ニ從ヒ逮捕監禁セラルヘキハ當然ニシテ何人ト雖トモ決シテ之レヲ免カル、ヲ得ス然ルニ議員ニ就キ此特典ヲ與ヘタル所以ハ既ニ前條ニ於テ説明セル如ク議員ハ國民ヲ代表シ重大ノ職務ヲ負擔スルモノニシテ云ハ、自己ノ身軀ニシテ自己ノ身軀ニアラス國民ノ團結ヲ代表スル處ノ身軀ナリ然ラハ一個人ノ資

格ニ出テタル犯罪ノ爲メ之レヲ逮捕監禁スルトキハ取り
モ直サス其團結躰モ亦從テ逮捕監禁セラル、ト同一ノ結
果ニ至ル然ルニ未タ嫌疑ノ中ニ在テ其罪跡ノ明確ナラサ
ル非現行犯ノ罪タルニモカ、ハラス之レヲ逮捕スルカ如
キハ貴重ノ職務ニ對シテ決シテ許スヘキ事ニ非ス是レ即
チ本條ノ規定アル所以ニシテ本條ハ前條ト共ニ議員ノ職
務ヲ保護スル最大緊要ノ法條ナリ
現行犯罪ト内亂外患ニ關スル罪トチ本條ノ取除ケトナシ
タルモノハ現行犯ハ其惡行ノ明白ニシテ毫モ疑點ノ存ス
ルナキニヨル又現行犯ニ非ラサルモ國家政躰ノ組織ニ害
ヲ加ヘント欲スル内亂ノ罪ノ如キ又外國ニ與シテ本國ニ
抗敵セント欲スル外患ノ罪ノ如キ其性質議員ノ職務ト氷

炭相容レサルモノナレハ既ニ此嫌疑ノ存スル以上ハ此議
員ハ固ヨリ議會ニ必要ナシ否之レヲ列席セシムルトキハ
恐ルヘキ禍害アリ然ラハ之レヲ保護スヘキ要ナキハ亦辨
ヲ俟スシテ明ラカナリ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ 出席シ及發言スルコトヲ得

本條ハ國務大臣及ヒ政府委員ハ議員ニ兼任スル者ニアラ
スト雖トモ何時タリトモ議院ニ出テ、議事ニ參與シ意見
ヲ陳フルコトヲ得ル旨ヲ定メタルナリ
茲ニ云フ國務大臣トハ内閣各大臣ヲ云フ又政府委員トハ
政府ニ於テ或ハ會計或ハ司法或ハ陸海軍ノ事ニ關シ各委
員ヲ設ケテ議事ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱ハシムルモノ

ヲ云フ猶議院ヲ各部ニ分チ其各部ノ委員ヲ定ムルト同一ナリ。

國務大臣及ヒ政府委員ニシテ議員ニ兼任スルトキハ固ヨリ議院ニ出席シテ且ツ表決ニ參スルヲ得ルハ勿論ナレトモ這ハ國務大臣及ヒ政府委員タル資格ヨリ出ルニ非スシテ議員ノ資格ニ於テスルモノナリ然ルニ國務大臣及ヒ政府委員ハ議員ニアラサル時ト雖トモ議院ニ出テ、發言スルノ權ヲ有ス其ノ斯ク定メタル所以ハ大臣ハ國民ニ對シテ政治ノ責任ニ當ルモノナレハ政府施政ノ方針ヲ示シ其實施ノ狀況ヲ報シ各議員ヲシテ詳カニ其現狀ヲ知悉セシムルハ最モ緊要ノ事ナレハナリ又政府委員ハ日常其事ニ從ヒ其事情ニ通曉セルヲ以テ假令政府ノ提出ニ係ラサル

議案ト雖トモ之レカ議事ニ參與スルハ勿論其議案ニシテ政府ヨリ提出セルモノニ係ル時ハ其趣旨ヲ辨明シ各議員ヲシテ充分ニ之レヲ會得セシムルハ最モ必要ノ事ナリトス是レ即チ本條ノ規定アル所以ナリ然シナカラ議員ノ地位ヲ有スルニ非スシテ單ニ國務大臣及ヒ政府委員ノ資格ヲ以テ議事ニ參與スルモノナレハ表決ノ數ニ加フル能ハサルハ勿論ナリ(議院法第四十五條)其他國務大臣及ヒ政府委員ト議院トノ關係如何ンハ議院法第九章第四十二條乃至第四十七條ニ就テ觀ルヘシ

第四章 國務大臣及樞密顧問

前章ノ始メニ於テ國家統治ノ大權ハ之ヲ大別スレハ立法行政ノ二權ニシテ司法權ハ行政權ノ一部ナレハ政權ヲ區

別スルニ方リテ之ヲ立法、行政、司法ノ三個ニ區別スルハ非ナリ。政權ハ立法ト行政ノ二權ニ過キスト、陳ヘタリ、這ハ學理上司法權ハ行政權ノ一部ニ外ナラサレハ之レヲ分割シテ行政權立法權ニ對峙スヘキ地位ニ置クヘキモノニアラスト論スルマテニテ行政權ト司法權トハ全ク區別ナシト云フニアラス之レヲ實行スルニ至テハ必ラス判然之ヲ區別シ各自獨立シテ毫モ相干渉セサラシムルヲ必要トス依テ左ニ其權限ヲ示サン

立憲權ハ一般國民ノ遵奉スヘキ原則ヲ定ムルモノニシテ其區域ハ法律ノ制定ニ止マリ之レカ執行ニ干渉スル能ハサルモノナリ

行政權ハ立法權ノ制定シタル法律ヲ執行シ及ヒ法律ノ許

ス所ノ範圍内ニ於テ活動スルモノニシテ決シテ自ラ法律ヲ設クルヲ得ス又法律ヲ執行スルニ方リテ之ニ反スル者アルモ自ラ之ニ制裁ヲ加フルコトヲ得サルナリ

司法權ハ法律ノ執行ヲ確保スルモノニシテ己レ自ラ進テ法律ヲ制作施行スルモノニアラス法律ニ反スル者ニ制裁ヲ加ヘ以テ法律ノ執行ヲ保證スルモノナリ

三權ノ區別斯ノ如ク判然タリト雖モ古昔、人文未開ノ時ニ在テハ此三權ノ事務ヲ舉ケテ一人ノ實行スル所ニ任セシヲ以テ己レ自ラ法ヲ立テ、己レ自ラ之ヲ行ヒ其命令ニ反スルトキハ己レ自ラ之ヲ罰シタリ故ニ其弊害殆ト云フヘカラス然ルニ近世ニ至リテハ三權各其人ヲ異ニシテ之カ實行ニ任シ秩序井然互ニ相侵サシメサルヲ以テ亦往時ノ

如キ弊ヲ見ス然レトモ行政權ハ常ニ強大ニ涉リ立法司法ノ二權ヲ凌駕セントスルハ一般ノ狀態ニシテ殊ニ司法權ハ往々其干涉ヲ免レ難シ予輩竊カニ各國ノ有様ヲ見ルニ行政司法ノ二權、蓋然其區域ヲ守リテ相侵サ、ル國ハ其文明ノ度最モ高ク之ニ反スルモノハ野蠻ノ稱ヲ免レス由是觀之バ此二權ノ關係ノ程度如何ハ以テ其國文化ノ進度ヲトスルニ足ル

立法、行政、司法ノ三權ヲ區別シ相干涉セシムヘカヲサル斯クノ如シ而シテ此權限ハ憲法ニ於テ確然之ヲ保證セサルヘカラス是レ第三章ニ於テ立法府タル帝國議會ノ權限ヲ明カニシ本章ニ於テ行政府タル內閣ノ責任ヲ定メ第五章ニ於テ司法權ノ獨立ヲ確定セル所以ナリ

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

本條ハ行政權ノ實行ニ任スル內閣各大臣ハ天皇陛下ヲ輔ケ奉リテ萬般ノ政治ヲ執リ行ヒ若シ其施政當ヲ得サルモノアルトキハ大臣ニ於テ凡テ其責ヲ負擔スヘキ旨ヲ定メタルモノナリ

行政ノ大權ハ陛下御一身ニ掌握シ給フコトハ勿論ニシテ君民同治トハ立法權ヲ實行スル點ニ在リテ行政權ヲ分掌スル點ニアラス若シ之ヲ分掌セハ所謂政令ニ途ニ出テ、民其歸スル所ヲ知ラス焉ソ能ク國家ノ安寧ヲ保ツヲ得ソ是レ行政權ハ內閣大臣ノ輔弼シ奉リテ陛下ノ親シク御

施行遊ハサル、所以ナリ若シ其施政或ハ其當ヲ得サルモノアラシカ大臣其輔弼ノ責ニ背キ終ニ其失政ヲ致セルナリ故ニ其任ニ背ケル大臣ヲシテ其責ニ任セシムヘキハ當然ナリ予輩ハ茲ニ學說上ヨリ内閣ノ責任ニ付キ少シク説明セシ

抑モ立憲君主政體ニ於テハ内閣ハ國君ノ委任ヲ受ケ國君ヲ輔佐シ行政事務ヲ取扱フモノナレハ上ハ國君ニ對シ下ハ議院ニ對シテ政治上ノ責任ヲ負擔スルモノトス此責任ハ之ヲ二ケニ區別セラル其一ハ各大臣一己ノ責任ニシテ各大臣ハ國君ヨリ委任サレタル職權ノ範圍内ニ於テ爲シタル所爲ニ付テハ其責ニ任スヘキモノナリ故ニ其所爲不可ナル時ハ辭職スヘキモノトス其二ハ内閣連帶ノ

責任ニシテ或ハ一國政治ノ方針ヲ定メ或ハ國家重要ノ政務ニ付キ内閣總理ニ於テ行フタル所爲ニ付テハ各大臣ハ其議ニ參與シタルト否トヲ問ハス連帶シテ其責ニ任スルモノトス何トナレハ内閣ハ外部ニ對シテハ異身同體ト見做サルヘキモノニシテ内閣總理ノ所爲ハ即チ内閣全體ノ意思ヲ表スルモノナレハナリ故ニ若シ其所爲ニシテ議院ノ拒ム所トナラシカ内閣全體其責ヲ負フテ辭職スヘキナリ

内閣大臣ノ責任及ヒ其責任ヲ負フヘキ理由率チ斯ノ如シ然ルニ國君ニ於テモ亦其責ヲ負フヘキモノナリト主張スルモノアリ這ハ君主國ニ於テハ決シテ許スヘカラサル説ナリ何トナレハ内閣大臣ニ於テ委任ヲ受ケ其可否ヲ保證

シ其可トスル所ヲ施行セシメ而シテ其責任ヲ國君ニ歸シ
終ニ怨望ノ府ヲラシメントスルハ實ニ不當ノ事ト云ハサ
ルヲ得ス是レ即チ本條ニ於テ國務各大臣ハ陛下ヲ輔弼シ
奉リ總テ政治上ニ付テハ之レカ責ニ任スヘキモノナリト
明示シタル所以ナリ而シテ内閣ハ政黨ヲ以テ組織スヘキ
モノナルヤ否ヤハ固トヨリ憲法解釋外ノ問題ニ屬スルヲ
以テ茲ニ論スヘキニアラサルナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇
ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

本條ハ樞密顧問ノ職務ノ綱領ヲ定メタルモノニテ樞密顧
問ノ職務ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ從ヒ天皇陛下ノ御諮
問ニ答ヘ奉リ一國重要ノ政務ヲ審議論究スルニ在リ

本條ノ示ス如ク樞密顧問ハ所謂議政官ナリ然ラハ既ニ帝
國議會ノ設ケアリテ法律ヲ議定シ内閣アリテ國務ヲ施行
ス然ラハ別ニ此官ヲ設クヘキ必要ナキモノ、如シ然ルニ
之ヲ設クルモノハ左ノ理由ノ存スルニ由ル
内閣ハ施政ノ劇務ニ當ルヲ以テ其政令ニ就キ潛思熟慮ノ
暇ニ乏シ故ニ閑散ノ地位ニ在テ重要ナル國務ニ付キ潛思
熟慮以テ能ク其可否得失ヲ審議研究シ之ヲ以テ其本務ト
スル者ナカルヘカラス加之國家一朝事アリ非常ノ英斷ヲ
要スルニ當テ臨機應變ノ處分ヲ爲シ得ル者ハ獨リ實際ニ
練達セル俊傑ノミ、サレハ一時非常權ヲ以テ常法常制ヲ廢
棄シ以テ國家ノ難ヲ救ハントスルカ如キ場合ニ於テハ主
トシテ此議政官ノ議ヲ聽クヲ以テ尋常ノ法則トナサ、ル